

令和4年度 研究紀要 第237号

# 調査課題研究

学習評価に関する調査

～アンケート結果の報告と考察～

胆振教育研究所



# 「指導と評価の一体化」を 進めるために

胆振教育研究所長 坂本 博  
(登別市立幌別中学校長)

本研究所では、『新』学習指導要領の全面実施やGIGAスクール構想の着実な推進のために、一昨年度、ICTの効果的な活用に関するアンケートを行いました。「ICTを効果的に活用するための校内体制」に関すること、「ICTを効果的に活用するために必要な環境整備」に関すること、「ICTを効果的に活用した学習活動の充実」に関することの3点について回答をいただき、考察を加え、『ICTの効果的な活用に関する調査』として研究紀要（第231号）にまとめ発刊しました。

昨年度は「ICTを効果的に活用した学習活動の充実」に特化したアンケートを Google Forms を使って行い、ICT機器を効果的に活用している先生方の授業実践例を集めました。そして、それらをまとめて『ICT機器の効果的な活用に関する調査』として研究紀要(第234号)として発刊しました。

本年度は、「学習指導要領はもう『新』ではなく、まさに今、日々の実践を積み重ねていかなければならない」「指導と評価の一体化の観点から、学習評価は重要な役割を担っている」との立場で調査研究を進めることとしました。そこで、『知識・技能』『思考・判断・表現』『主体的に学習に取り組む態度』の3つに整理された学習評価の観点について、見取りの工夫や通知表との関連性、評価の実際について調査し、それを還元することにより、各学校の実践に役立てていただきたいと考えました。

調査は苫小牧市・室蘭市を除く、胆振管内すべての小・中学校にご協力をいただきました。1回目は「各校における学習評価の概要」を各学校1名に、2回目は「学習評価の実際」をすべての教員を対象にお願いしました。それらをまとめ、考察を加えたものが本紀要です。依然収まらない新型コロナウイルス感染症対策と並行しながら、日々授業改善に向けて苦労や工夫を重ねている先生方の、少しでも力になれることを心より願っております。

最後になりますが、本紀要作成にあたり、アンケートに答えていただいた先生方に感謝申し上げます、発刊の挨拶といたします。

# もくじ

|                                 |               |    |
|---------------------------------|---------------|----|
| ○巻頭言 .....                      | 胆振教育研究所長 坂本 博 |    |
| ○調査の概要 .....                    |               | 1  |
| ○学習評価に関するアンケート調査                |               |    |
| I 各校における学習評価の概要                 |               |    |
| 1 各校における学習評価の基本的なおさえ .....      |               | 2  |
| 2 評価方法について .....                |               | 6  |
| 3 通知表について .....                 |               | 10 |
| 4 学習評価の課題 .....                 |               | 18 |
| II 学習評価の実際                      |               |    |
| 1 学習評価に関する意識調査 .....            |               | 20 |
| 2 評価を行っていく上での課題・悩み .....        |               | 23 |
| 3 学習評価の実践例（主体的に学習に取り組む態度） ..... |               | 27 |
| ○調査を通して見えてきたこと .....            |               | 33 |
| ○「主体的に学習に取り組む態度」の評価について .....   |               | 34 |
| ○参考文献 .....                     |               | 36 |
| ○令和4年度 所員一覧 .....               |               | 36 |
| ○あとがき .....                     |               | 37 |

# 本調査の概要

## ■調査の趣旨及び目的

令和2年度より小学校、令和3年度より中学校において、新学習指導要領が全面実施となっています。

大きな変更点として、学習評価の観点が3つ（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）に整理されました。

指導と評価の一体化の観点からは、新学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っています。

そこで胆振教育研究所では、「学習評価」について、見取りの工夫や通知表との関連性、小中それぞれの評価の実際など、幅広い視点で実態調査を行い、考察を加えた結果を周知することで、明日からの各校の実践に役立てていただきたいと思います。

## ■調査内容と回答者

胆振管内（苫小牧市、室蘭市を除く）のすべての小・中学校ご協力いただき、2回に分けて調査を実施いたしました。

1回目は7月、教務主任や研究部長など、自校の学習評価について詳しく理解している方（1名）を対象に、「各校における学習評価の概要」をテーマに調査を行い、管内の小学校 27 校、中学校 18 校、計 45 校にご回答いただきました。

2回目は11月、実際に学習評価を行っているすべての教員を対象に、「学習評価の実際」をテーマに調査を行い、小学校 149 名、中学校 92 名、計 241 名にご回答いただきました。

## ■回答方法について

いずれの調査も Google Forms を用いてオンラインで回答いただきました。記述式で回答いただいたものについては、一部編集して取りまとめて掲載しております。

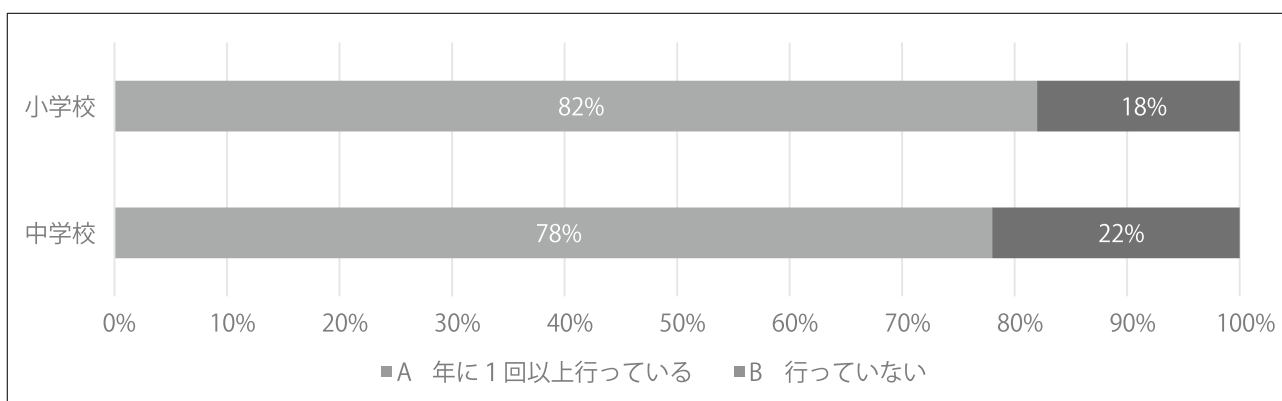
# 学習評価に関するアンケート調査

## I 各校における学習評価の概要

### 1 各校における学習評価の基本的なおさえ

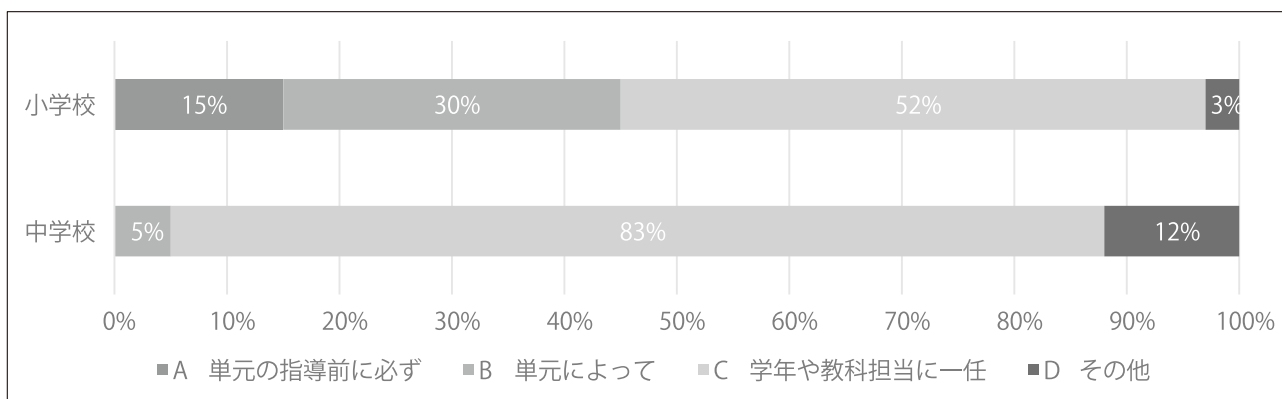
Q1 学校全体で学習評価に関する会議、または研修を行っていますか。

- A 年に1回以上行っている。
- B 行っていない。



Q2 学年内、または教科担内など、教員同士で単元の指導前に評価規準や評価方法について検討・明確化する時間を設けていますか。

- A 単元の指導前に、必ず検討する時間を設けている。
- B 単元によって、検討する時間を設けている。
- C 学年や教科担当に一任している。
- D その他



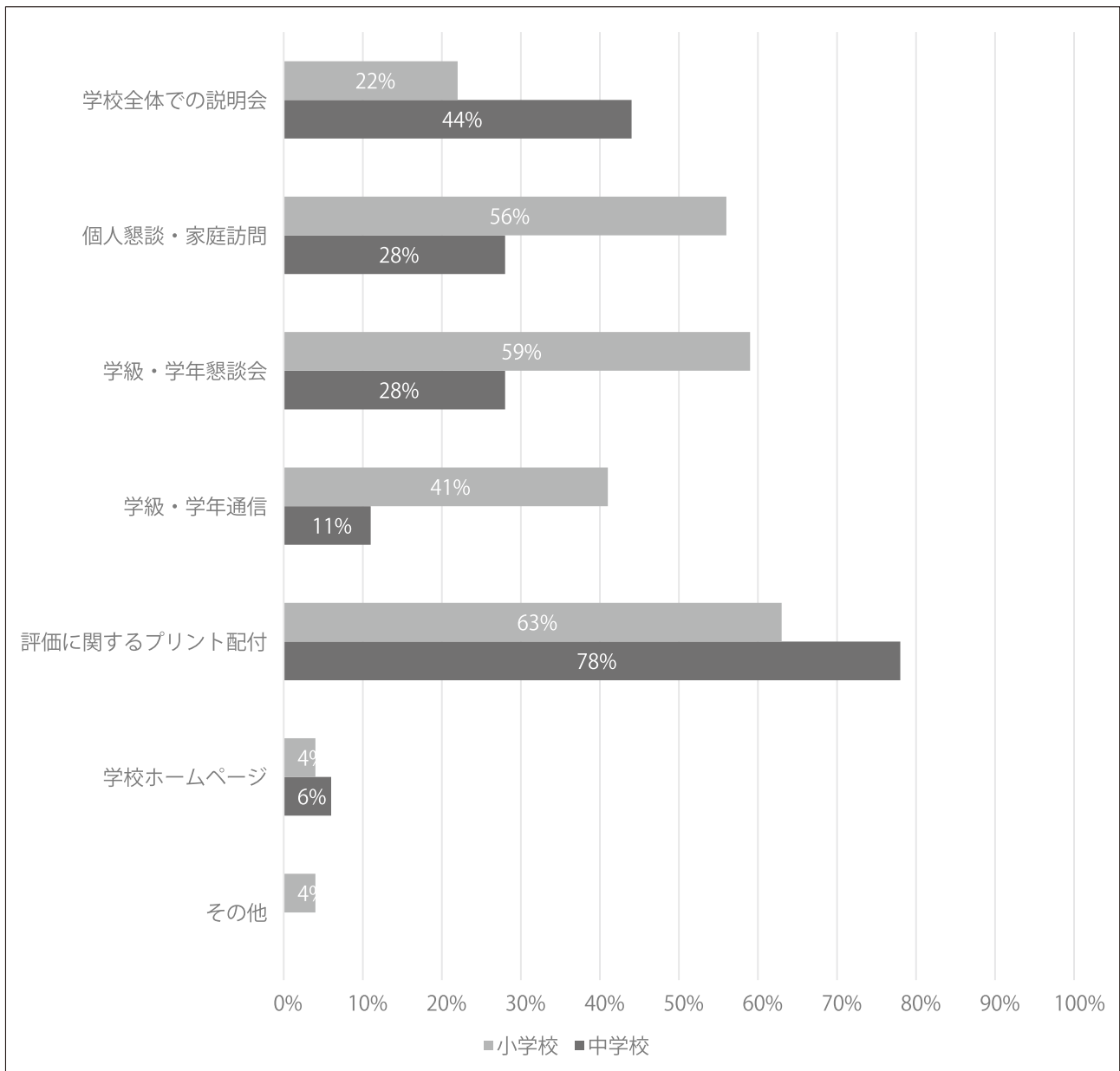
#### ※その他

- ・校内研修の中で実施しているところである。(小学校)
- ・単元ではなく、学校全体の方向性、特に評価方法の検討を行っている。(中学校)
- ・年度初めに教務から基準の提示がある。(中学校)

Q 3 保護者に対して、学習評価に関する説明をどのようなタイミングで行っていますか。

(複数回答可)

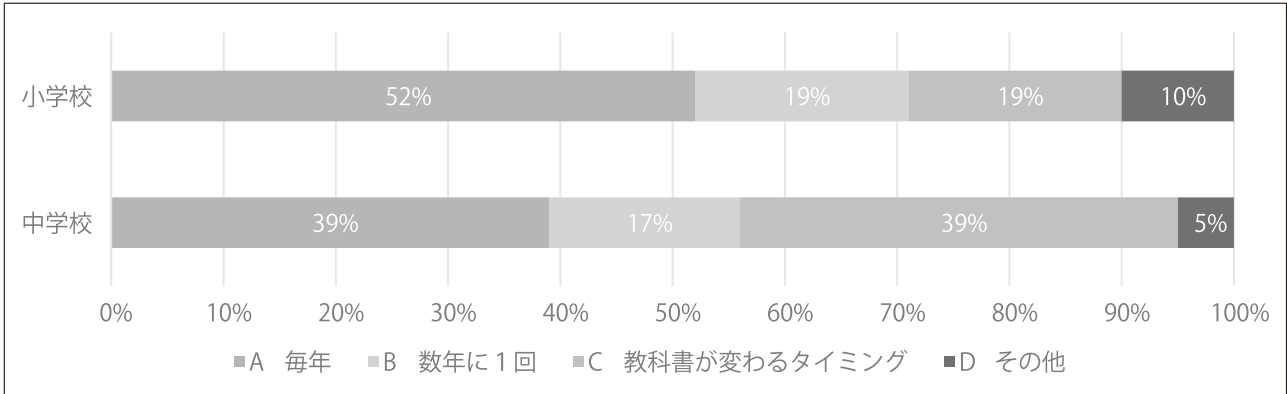
- A 学校全体での説明会
- B 個人懇談・家庭訪問
- C 学級・学年懇談会
- D 学級・学年通信
- E 評価に関するプリント配付
- F 学校ホームページ



※その他

・通知表に記載。(小学校)

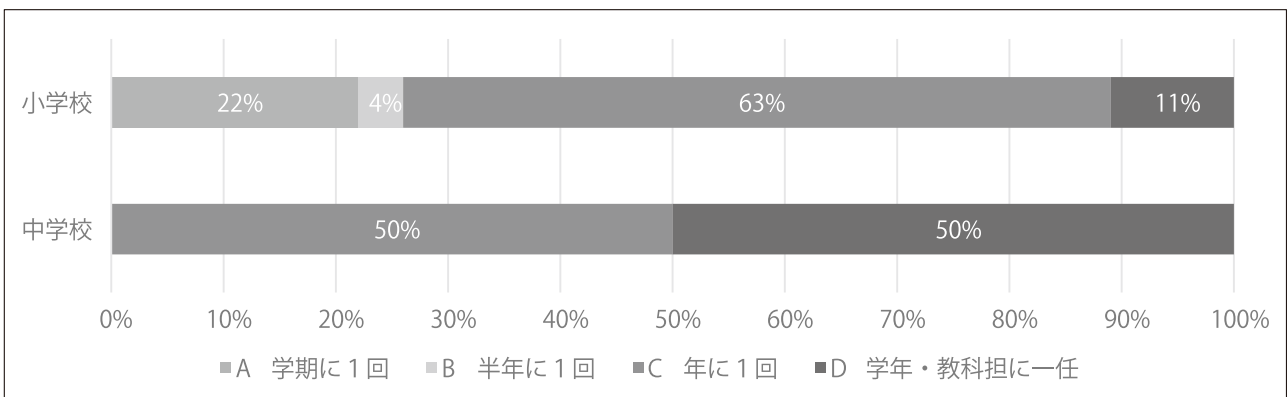
- Q 4 学校全体で、指導計画や評価規準の作成・更新をどのくらいの頻度で行っていますか。
- A 毎年
  - B 数年に1回
  - C 教科書が変わるタイミング
  - D その他



※その他

- ・評価規準は教科書が変わるタイミングだが、指導計画は学期ごとに見直し修正を加えている。(小学校)
- ・長期休業中や年度末に追加記入をしている。(小学校)
- ・毎月、教育課程上の評価(次年度に向けた改善)を行っている。(小学校)
- ・特に設定していません。(中学校)

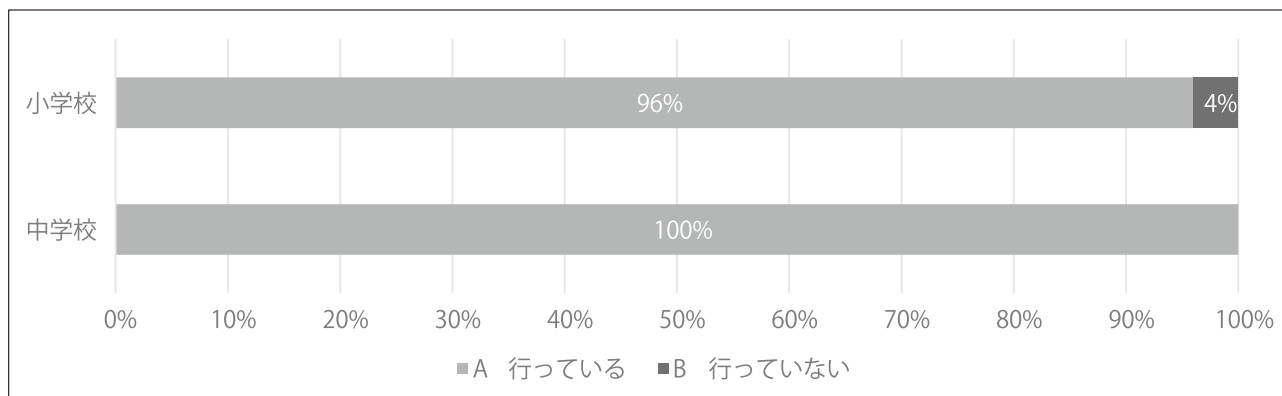
- Q 5 1年の間で、学年内・教科担当内で、次年度に向けて指導計画や評価規準を見直す機会をどの程度設けていますか。
- A 学期に1回程度
  - B 半年に1回程度
  - C 年に1回程度
  - D 学年・教科担当に一任



実施頻度は学校によって異なりますが、小・中学校共に、年に1回以上、指導計画や評価規準の見直しを行うことで、次年度の指導に役立てていることがわかります。

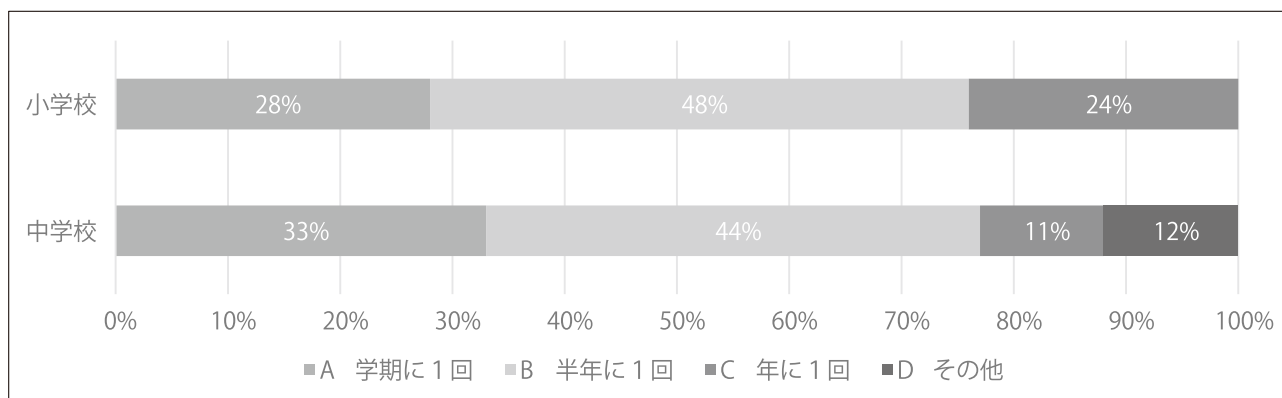
Q6 学習アンケート、授業アンケートなど、児童・生徒による授業（学習）評価を行っていますか。

- A 行っている。
- B 行っていない。



Q7 Q6で行っていると回答した学校は、1年間にどのくらいの頻度で行っていますか。

- A 学期に1回
- B 半年に1回
- C 年に1回
- D その他



※その他

- ・定期テストの時期を中心にして年に8回。(中学校)
- ・基本は年1回。うち研修の資料として実施することもあり。(中学校)

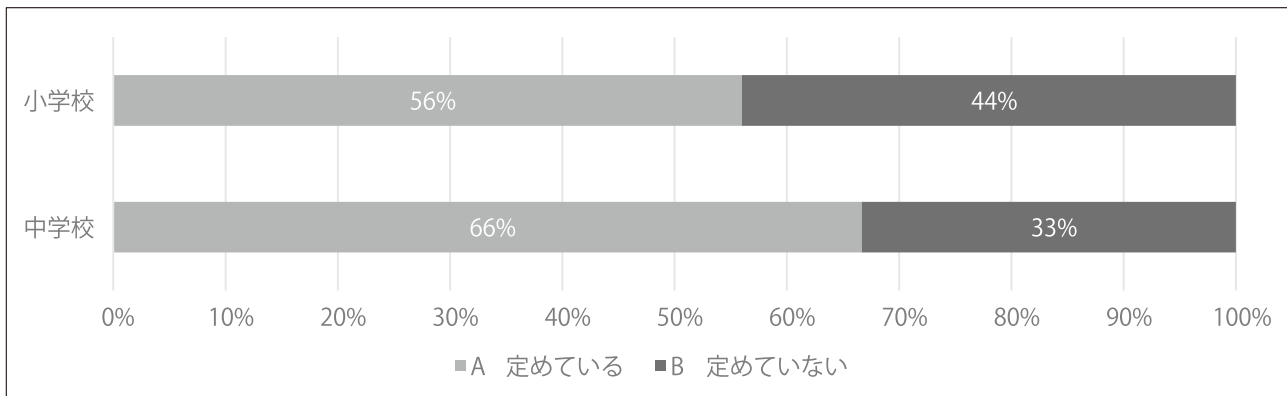
実施回数は異なりますが、ほぼ全ての学校で、児童生徒による授業（学習）アンケートを実施し、授業改善に役立っていることがわかります。



## 2 評価方法について

Q8 観点別評価において、主にどの評価方法で見取るかを、学校全体で定めていますか。(または、各評価方法が評価に占める割合を、学校全体で定めていますか。)

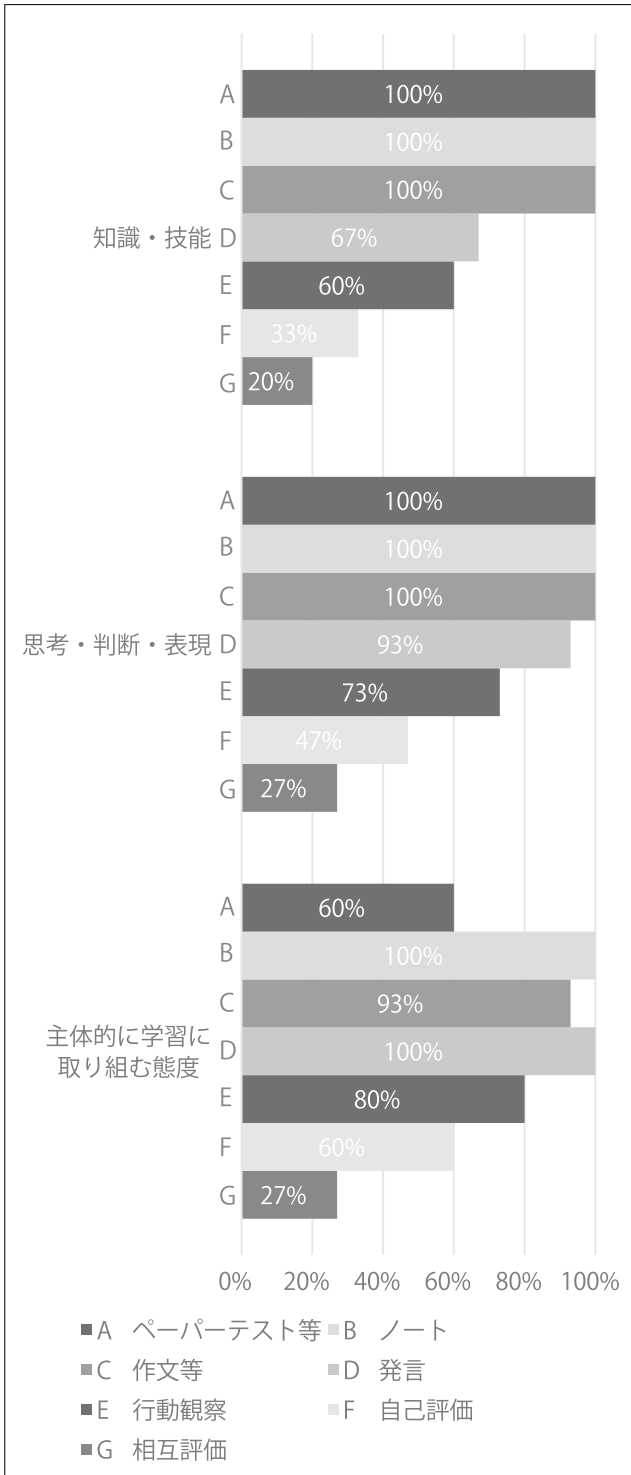
- A 定めている。
- B 定めていない。



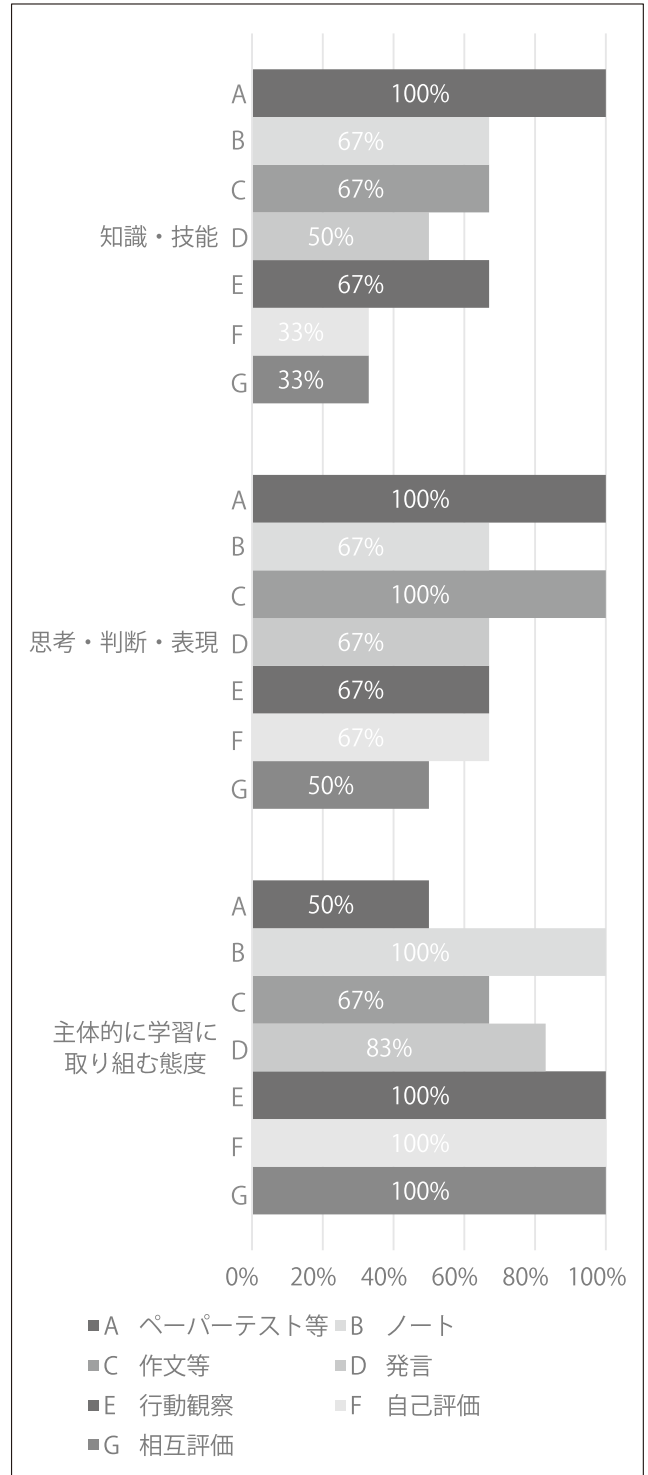
Q9 Q8で「定めている。」と回答した学校は、それぞれの観点別評価で用いる評価方法を選んでください。(複数回答可)

- A ペーパーテスト、実技
- B ノート
- C 作文、ワークシート、レポートなど
- D 発言
- E 行動観察
- F 自己評価
- G 児童生徒による相互評価

【小学校】



【中学校】



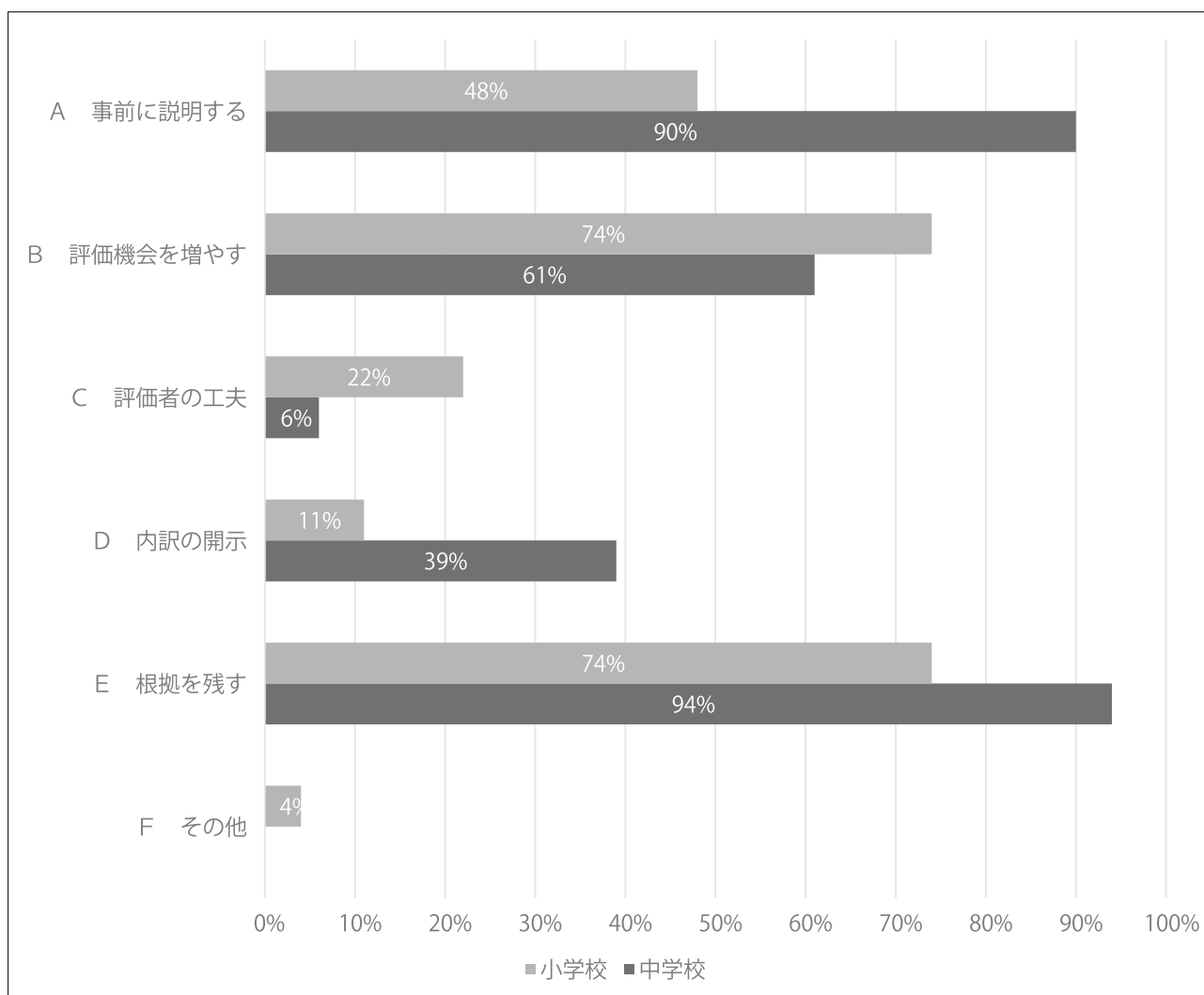
小、中学校共に、現在半数以上の学校で、評価方法について具体的に定めていることが明らかとなりました。観点ごとに定める評価方法についての調査の結果からは、

- ・小、中学校共に、どの観点別評価においても「ノート」を重視している。
- ・主体的に学習に取り組む態度の評価において、全ての中学校が「自己評価」や「相互評価」を用いており、小学校との大きな違いが見られる。

といった特徴が見えてきました。

Q10 評価の客観性・公平性を保つために、どのような工夫をしていますか。(複数回答可)

- A 評価方法を事前に児童生徒（家庭）に説明する。
- B 評価する機会を増やす。
- C 評価者を工夫する。  
(1人の先生が複数の学級を評価する、複数の先生で作品を評価する、など)
- D 評価の内訳を開示する。
- E 評価の根拠を残す。
- F その他



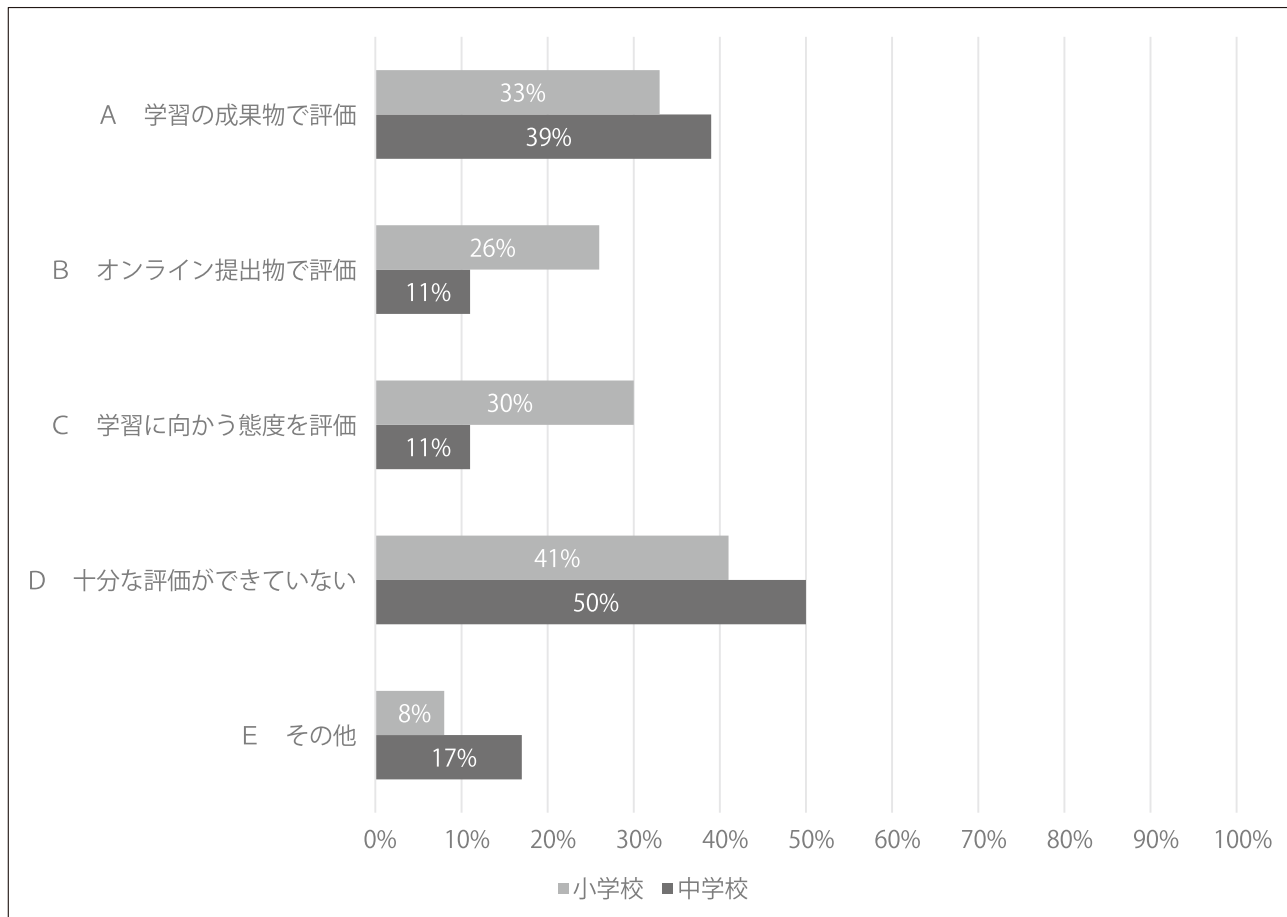
※その他

・会議等で、評価方法の共通理解を図る。(中学校)

「評価方法を事前に児童生徒（家庭）に説明する」という項目の割合が、小学校に比べて中学校が非常に高いのが特徴的です。

Q11 オンライン学習における評価はどのようにしていますか。(複数回答可)

- A レポートやノート、ワークシート等、学習の成果物で評価している。
- B 学習の成果物をオンラインで提出してもらい、評価している。
- C 発言の様子や、カメラを通して観察し、学習に向かう態度を評価している。
- D 現在のところ、十分な評価ができていない。
- E その他



※その他

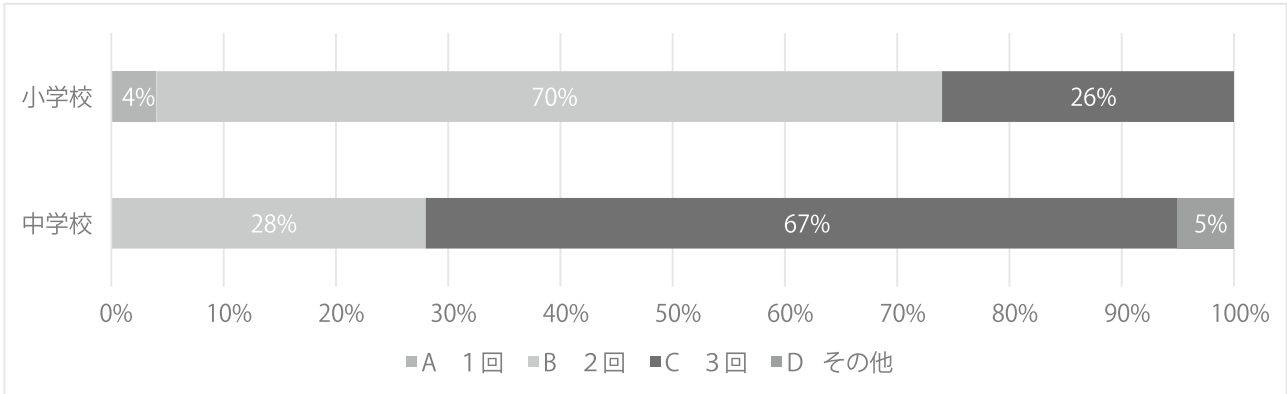
- ・オンライン学習を実施していない。(小学校2校、中学校2校)
- ・評価が必要となるオンライン学習を実施していない。(中学校)

およそ半数の学校が「十分な評価ができていない」と回答しており、オンライン学習の評価について苦慮している様子がアンケート結果から伺えます。「まずはやってみる」という学校が現状多いのではないかと推察します。対面式の授業とは異なる部分が多いため、まずは実践を積み重ねながら、よりよい評価方法を探っていく必要がありそうです。

### 3 通知表について

Q12 1年に何回通知表を発行していますか。

- A 1回
- B 2回
- C 3回
- D その他

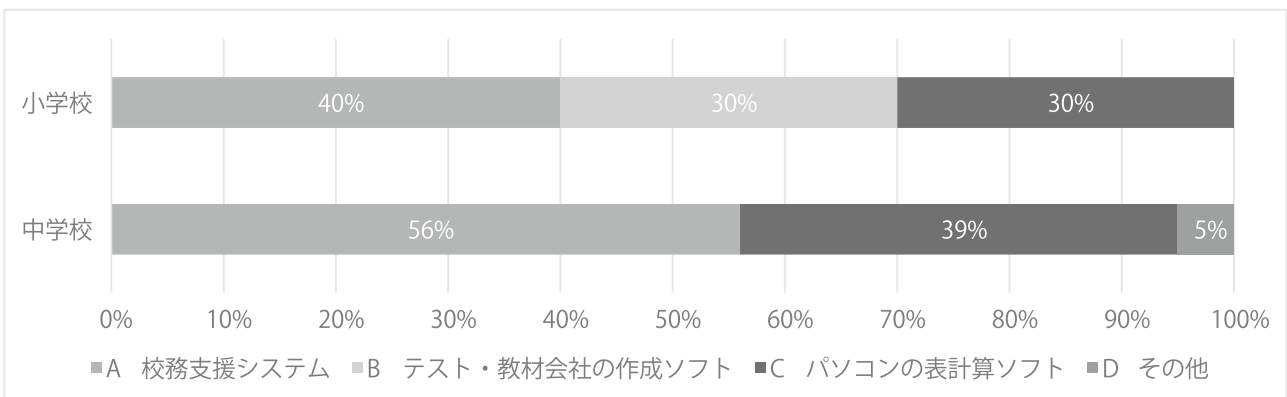


※その他

- ・ 4回（中学校）

Q13 通知表はどのように作成していますか。

- A 校務支援システムの通知表作成ソフトを使って作成している。
- B 採用しているテスト会社や教材会社の通知表作成ソフトを使って作成している。
- C パソコンの表計算ソフト等を使って自校で作成している。
- D その他



※その他

- ・ 学校独自の様式（中学校）

今年度から、管内の多くの市町で校務支援システム（C4th）が導入されました。通知表作成において、そのシステムを活用する学校が小・中学校共に最も多いという結果となっています。

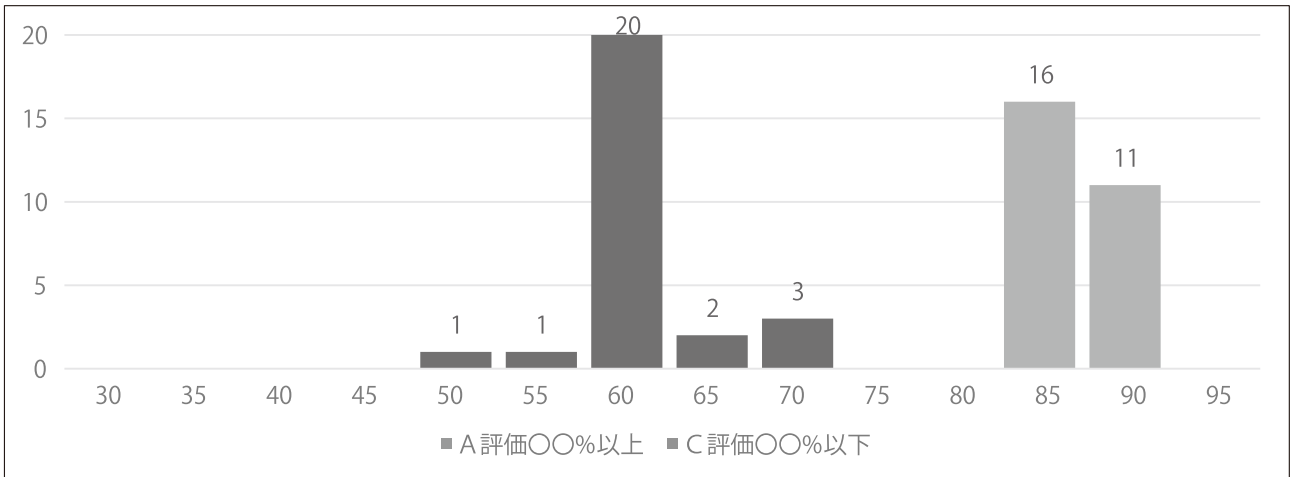
Q14 観点別評価を数値化した際のCuttingポイントを教えてください。

(各校で設定している数字が選択肢にない場合、一番近い数字を選んでください。)

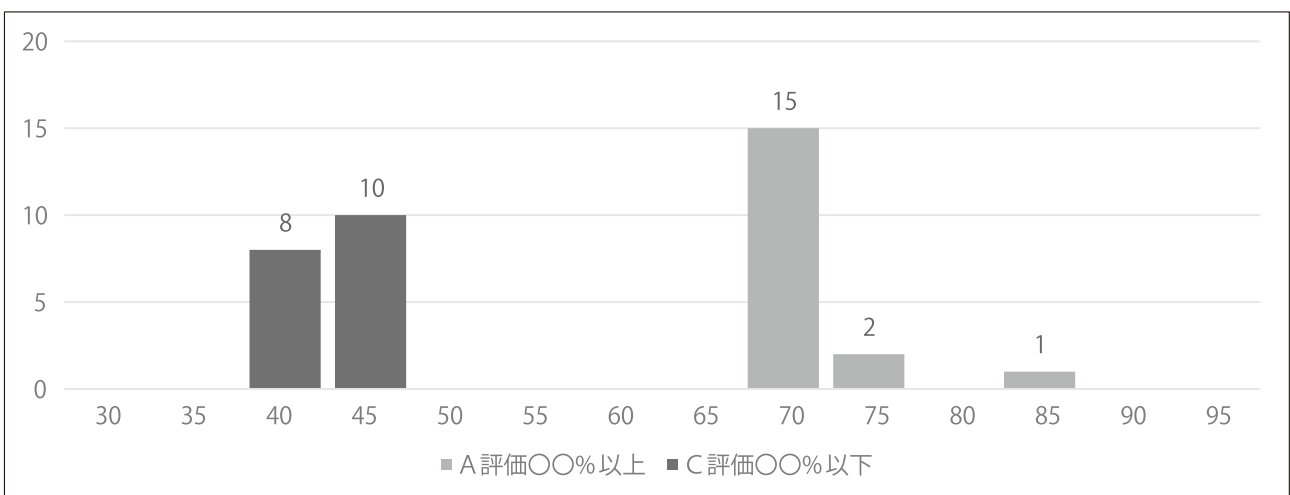
A評価 〇〇%以上

C評価 〇〇%以下

【小学校 (27 校中)】



【中学校 (18 校中)】

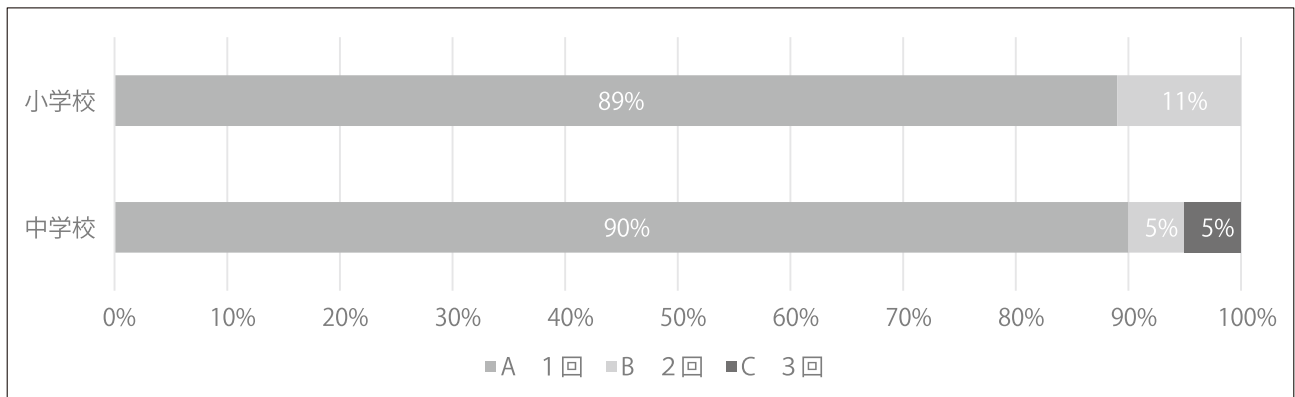


小学校においては、60% が最も多いものの、50～70%と、C評価のおさえに比較的幅があることがわかります。対して、中学校はおおむね近い数値内に収まっています。

また、小学校と中学校を比較すると、A・C評価共に、基準となる数値が大きく異なることが、調査の結果明らかとなりました。

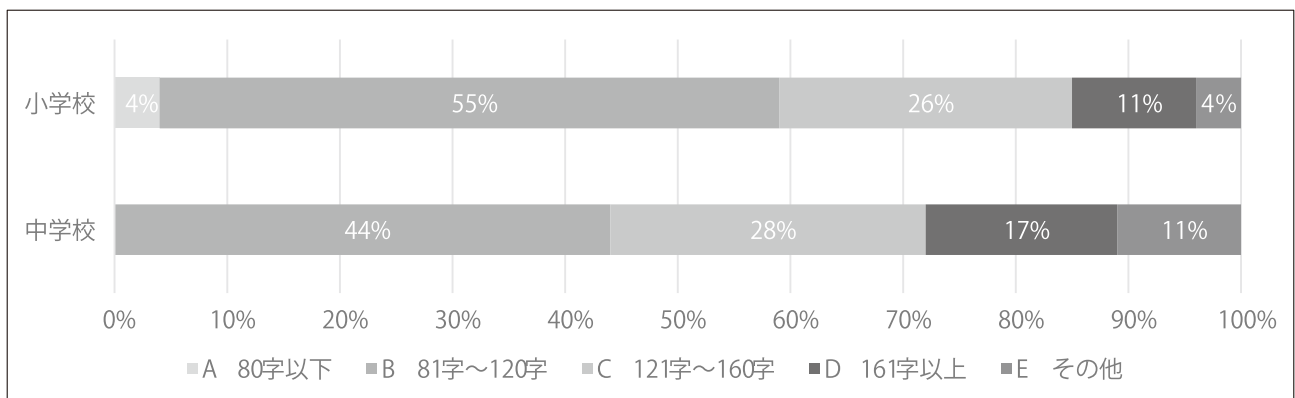
Q15 「特別の教科 道徳」の評価は、年に何回通知表に記載していますか。

- A 1回
- B 2回
- C 3回



Q16 「特別の教科 道徳」の評価を記載する際の、1回分の文字数について、あてはまるものを選んでください。

- A 80字以下
- B 81字～120字
- C 121字～160字
- D 161字以上
- E その他

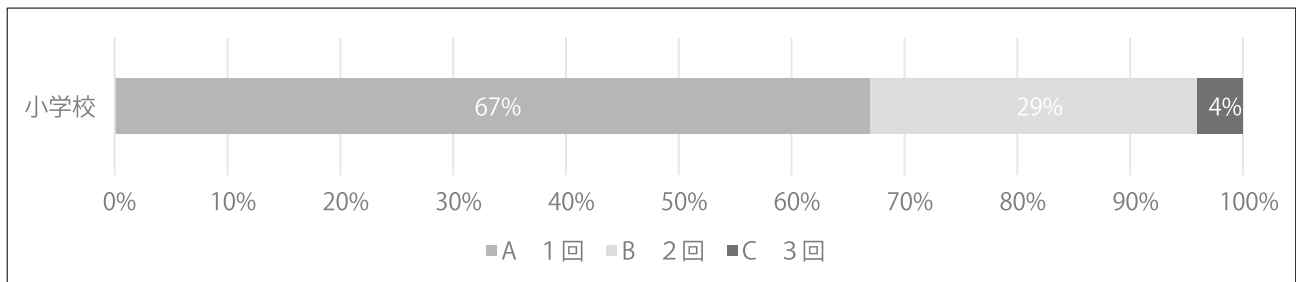


※その他

- ・文字数の制限はないが、おおよそ120字くらい。(小学校)
- ・特に定めていない。(中学校2校)

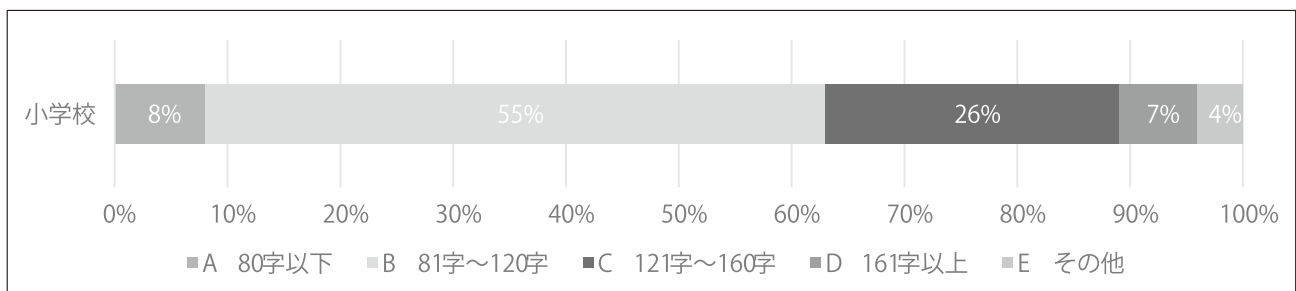
Q17 「外国語活動」の評価は、年に何回通知表に記載していますか。(小学校のみ)

- A 1回
- B 2回
- C 3回



Q18 「外国語活動」の評価を記載する際の、1回分の文字数について、あてはまるものを選んでください。

- A 80字以下
- B 81字～120字
- C 121字～160字
- D 161字以上
- E その他



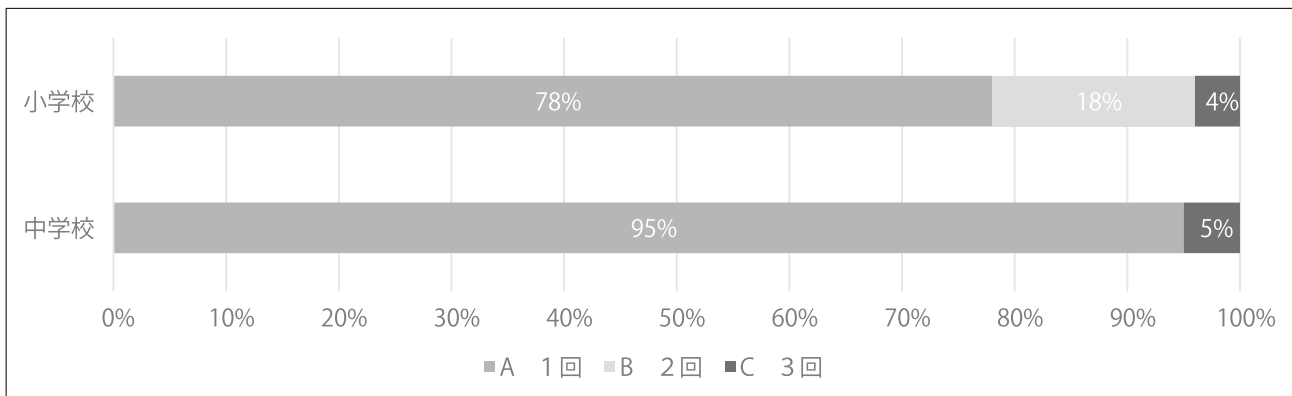
※その他

・文字数の制限はないが、おおよそ120字くらい。(小学校)



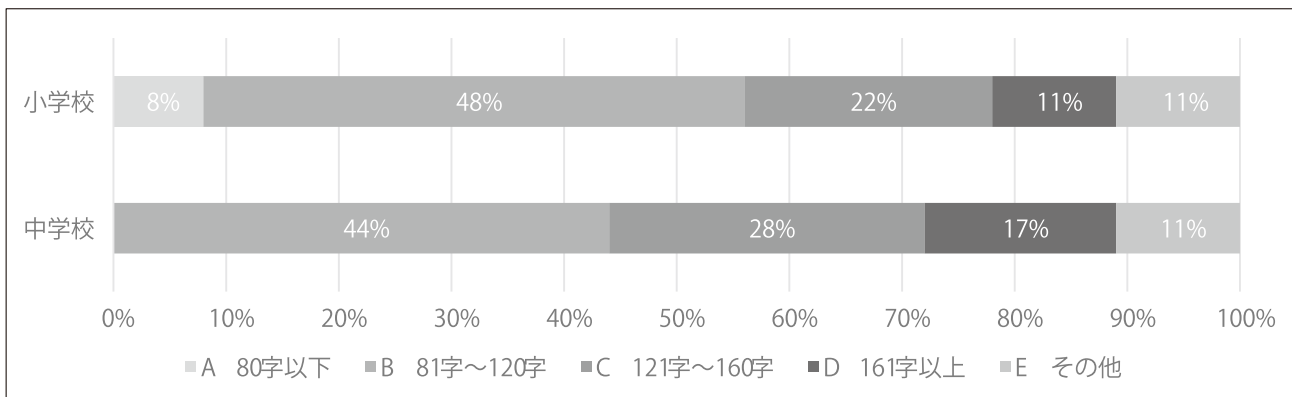
Q19 「総合的な学習の時間」の評価は、年に何回通知表に記載していますか。

- A 1回
- B 2回
- C 3回



Q20 「総合的な学習の時間」の評価を記載する際の、1回分の文字数について、あてはまるものを選んでください。

- A 80字以下
- B 81字～120字
- C 121字～160字
- D 161字以上
- E その他

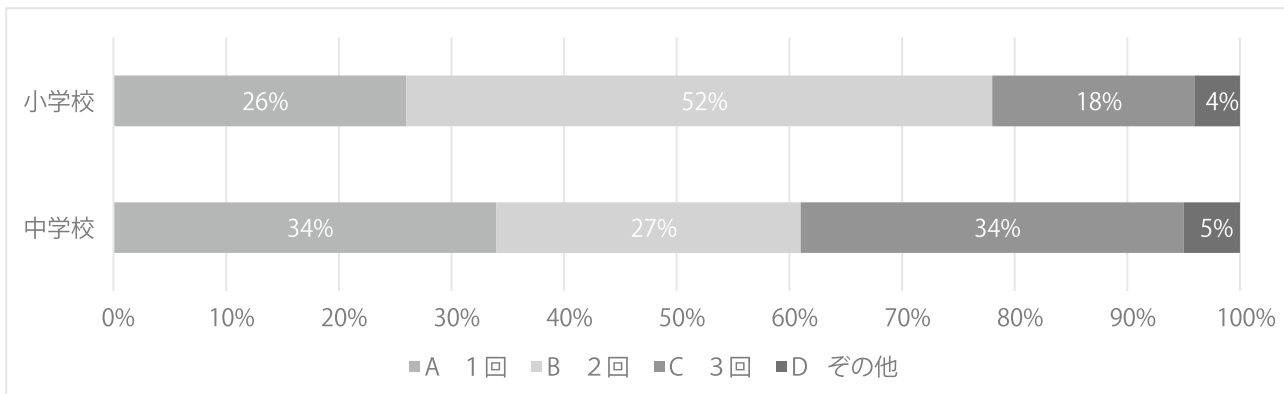


※その他

- ・文字数の制限はないが、おおよそ120字くらい。(小学校)
- ・特に字数は設定していない。(小学校)
- ・特に評価の高い観点に丸をつける。(小学校)
- ・特に定めていない。(中学校)

Q21 総合所見は、年に何回通知表に記載していますか。

- A 1回
- B 2回
- C 3回
- D その他

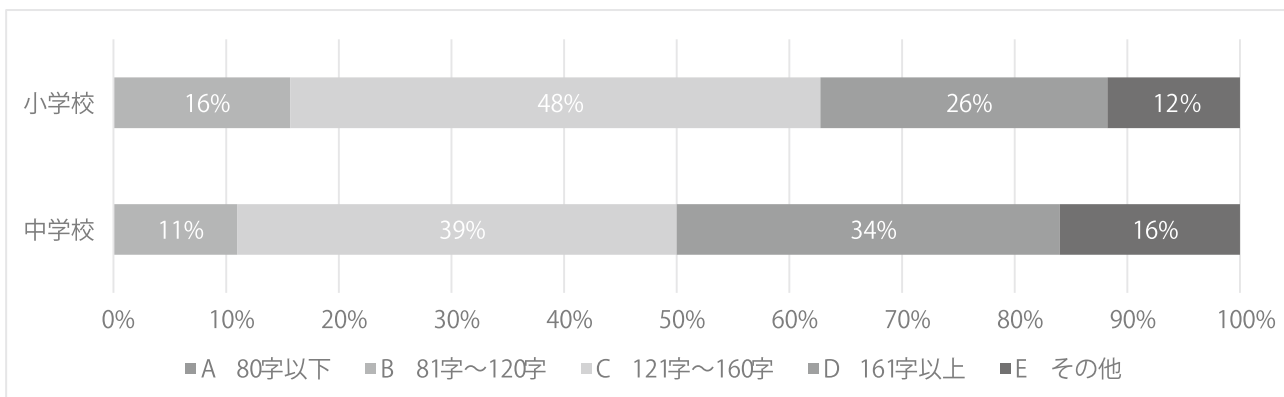


※その他

- ・記載しない。個人懇談で伝えるようにした。(小学校)
- ・なし。(中学校)

Q22 総合所見を記載する際の、1回分の文字数について、あてはまるものを選んでください。

- A 100字以下
- B 101字～150字
- C 151字～200字
- D 201字以上
- E その他

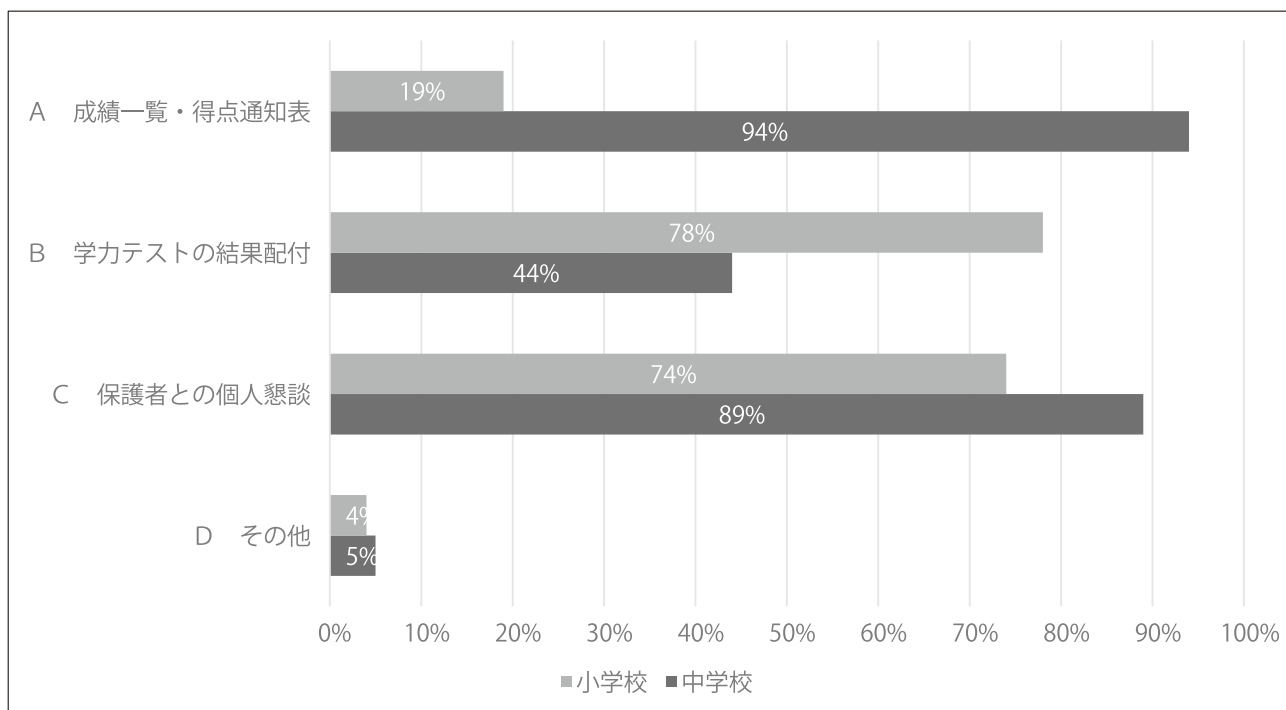


※その他

- ・記載しない。(小学校)
- ・文字数は特に決めていない。担任が決めていく。(小学校)
- ・文字数の制限はないが、おおよそ300字くらい。(小学校)
- ・特に決めていない。(中学校2校)
- ・各学年で決めていく。(中学校)

Q23 通知表以外で、学習の評価を児童生徒本人や家庭に知らせるために行っていることがあれば教えてください。(複数回答可)

- A 単元テストの結果一覧（テスト会社の成績資料など）や、得点通知表の配付
- B 市町や学校独自で取り組んでいる学力テストの結果の配付
- C 保護者との個人懇談
- D その他



#### ※その他

- ・情緒障がい児短期治療施設職員との懇談。(小学校)
- ・少人数校なので、学期末に生徒全員と個人面談による成績説明や、今後どのように学習するか教科面談を実施している。(中学校)

学習評価を伝える手段として、小学校では「学力テスト結果の配付」、中学校では「得点通知表の配付」の数値が高いのが特徴的です。

Q24 通知表作成にあたって、課題や困り事があれば教えてください。(自由記述)

【小学校】

- ・ C4th との連携がさほど手間を軽減し、働き方改革につながるものではないということ。
- ・ C4th での作成に移行準備を進めるが、作成操作や手順・個人データの保護・セキュリティなどの不安がある。
- ・ 今年度より通知表を校務支援システム C4th での作成となった。成績処理ソフトとリンクをさせ、C4th に入力することや、C4th での通知表の作成に苦労している。
- ・ C4th での作成に係ること
- ・ C4h との連携
- ・ 通知表作成ソフトの会社との連携。年度更新の際、苦戦した。
- ・ 評価の観点が整理されたものの、内包されている要素が多岐に渡っている。そのため、真剣に考えれば考えるほど B 評価が増えてしまう。
- ・ 文章記述のものが多い。  
(例：中学年であれば、総合的な学習の時間、外国語活動、道徳科、総合所見の 4 種類)
- ・ 「特別の教科 道徳」における評価方法（大きくりなまとまりを踏まえた評価）について、職員間の共通理解を、今後よりいっそう図る必要がある。

【中学校】

- ・ 校務支援システムを使った通知表作成が初めてであり、市教委からシステムを使って作成するような指示はあっても、具体的なサポートもなく完全に学校任せになっていることに困惑している。また、システムのヘルプデスクからアンケート調査はあったが、回答があまりにも遅すぎて意味をなさなかった。
- ・ 校務支援システムを使用するようになることで、同じ内容の情報が必要となる通知表、指導要録、高校入試に使用する調査書などへの活用がずいぶんとスムーズに行えるようになった。
- ・ システムが切り替わりちゃんとできるのか心配。
- ・ 今年度校務支援システムが導入されたので、新たな試みでの困り感がある
- ・ 次年度より総合所見は「学年末のみ記入」にしようかと水面下で検討中。
- ・ 今年度から通知表の発行を年 2 回にしている。保護者への周知、発行に関わる日程の調整など

今年度より多くの市町で校務支援システム（C4th）が導入され、連動させて通知表を作成する学校が非常に多くなっています。効率化される良さと併せて、移行作業に伴う困り感、悩み、課題の声が多く寄せられました。

また、小・中学校の共通の課題として、「記述（所見）量の多さ」が挙げられます。本アンケートにおいても記述評価部分の分量や回数について調査しました。道徳と総合的な学習の時間の記述回数については共通する傾向が見られますが、それ以外の分量や回数については学校によって異なるという結果が示されました。児童生徒や家庭に、評価をわかりやすく丁寧に伝えるという目的と、働き方改革の推進とで、それぞれの学校で苦慮されている実態がアンケート結果に表れています。

今後自校の通知表を検討していく上で、本アンケートが参考になれば幸いです。

## 4 学習評価の課題

Q25 各校において、学習評価に関してどのような課題がありますか。(自由記述)

### 【小学校】

- ・指導と評価の一体化を意識した授業改善を進めること。
- ・指導と評価の一体化。学習指導要領での各教科の目標や内容をどのような形で指導（児童の活動）していくか、また、児童はどのような活動の中で目標に向かっていくのか、またその活動の中で教師はどのように評価していくのかの捉え方が様々である。
- ・指導を改善するための学習評価という意味が弱い。学習評価を指導の改善につなげるシステムの構築が必要だと思う。
- ・授業を子供の学びの姿から評価すること。児童にどういった力が身に付いたかを捉えて、指導の改善を図っていくこと。それを意識すること。
- ・評価のエラーが起きにくいように、教師側で、「何を単元のゴールとするか」を押さえ、教材研究がしっかり適切に行われているか。
- ・小規模校のため、評価において担任の主観による比重が大きい。そのため、評価の妥当性については、十分に検討する機会を設ける必要がある。
- ・児童の習熟度に差がある場合に、担任の主観で相対的に比較した評価にならないよう、学習の絶対的な評価規準を明確にすることを、今後も継続して取り組んでいく必要がある。
- ・評価に関する研修の機会を確保するのが難しい。
- ・校内で研修会などを開き、評価方法の共有を図りたい。特に芸体系の教科、図工や音楽などの評価の仕方を若い先生も経験のある先生も同じようにできるようにしていきたい。
- ・学習評価への理解に個人差がある。
- ・学年・学級間での差が出ていないかどうか。
- ・学年間や担任間のズレの調整。
- ・次年度から早来学園として、小学校3校中学校1校が一つになるので、今後各校の評価を擦り合わせていくことが課題です。
- ・作成ソフトを今年からこれまでの独自のものからテスト会社のものに移行し、実施している。使いやすさや安全性など検討中である。
- ・校務支援システムの導入1年目なので、まだ手探り状態。

### 【中学校】

- ・主体的に学習に取り組む態度をどのように評価するのか各教科で苦労している。
- ・本校は小規模校であり、各教科担任は1人ずつです。そのため、校内の教科担任間で評価はもちろんのこと、授業のことなどについて相談する機会をもつことができません。個人的なつながりや管理職を通じての情報提供で補っています。また、具体的な評価・評定の付け方では、やはり「主体的に学習に取り組む態度」をどのように見取り、評価していくのかは今後の大きな課題だと感じています。「知識・技能」や「思考・判断・表現」はテストなどの客観的なものを成果として評価につなげることができます。一方で、「主体的に学習に取り組む態度」では、「粘り強く」や「自ら調整」といった側面をどのように評価していくことが適切であるのかについて、試行錯誤しながらというのが現状です。
- ・主体的な学習の観点の評価材料と方法。

- ・主体的に学習に取り組む態度についての評価に関して。
- ・「思・判・表」に重きを置く授業が単元、教科によっては難しいので、評価に反映させるのをどの程度、学校全体で決めればよいか、です。
- ・観点別評価で用いる評価方法の工夫。(観点同士のつながり、観点別評価と評定の連動など)
- ・各観点を同等に評価しているが、4観点から3観点となり「知識及び技能」の比重(評価材料)が大きくなってしまう。また、評価の組み合わせ10パターンのうち2パターン(AAC, ACC)を出さないことに内々で決めしたが、どうしてもこの2パターンが出てしまう生徒がいる。
- ・各教科の評価の仕方の周知。
- ・年間の定期テストの実施の有無を含めた回数の見直し。
- ・特別支援学級で普通高校進学のための成績付けをどのようにしていったら良いか。

たくさんの意見を寄せていただきありがとうございました。集約する中で、以下の3点が共通する課題として見えてきました。

- ①教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある評価をどのように行っていくか。(指導と評価の一体化)
- ②個人の主観ではなく、共通理解に基づいた評価をどのように行っていくか。
- ③「主体的に学習に取り組む態度」をどう評価するか。

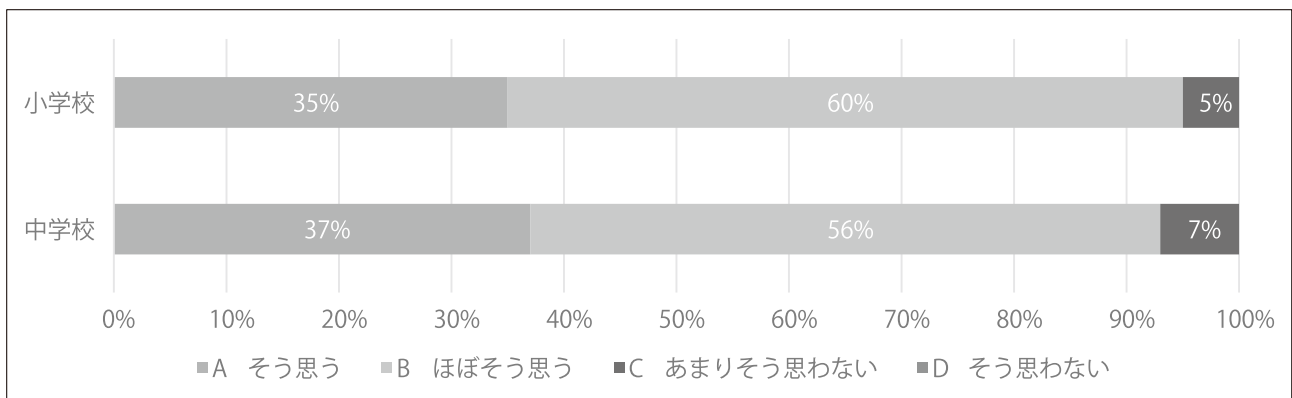
これらの課題を踏まえた上で、2回目のアンケートとして、実際に評価を行う全ての先生方を対象に、学習評価に関する意識調査を実施しました。次ページからはその結果について掲載します。

## II 学習評価の実際

### 1 学習評価に関する意識調査

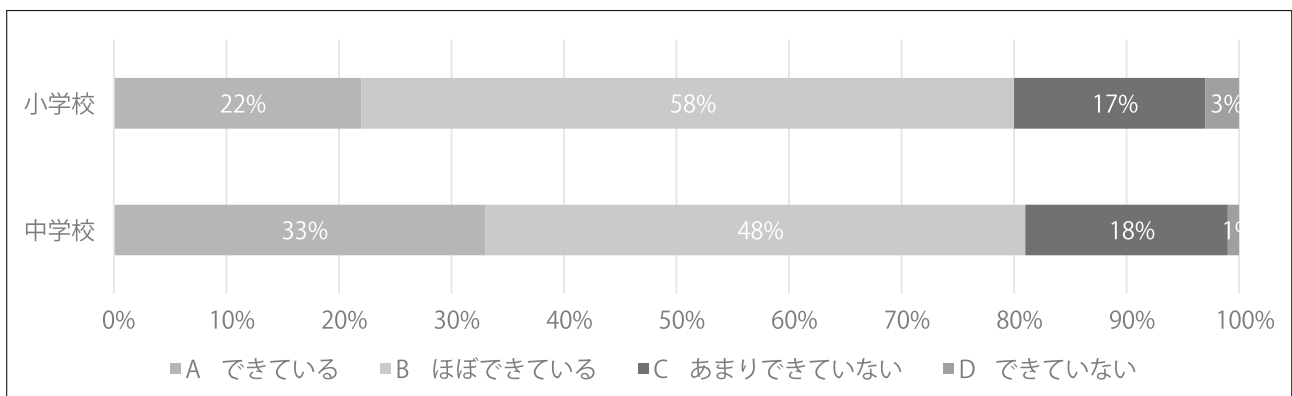
Q1 校内や外部による研修、会議等を通して、学習評価の意義や方法について理解していますか。

- A そう思う
- B ほぼそう思う
- C あまりそう思わない
- D そう思わない



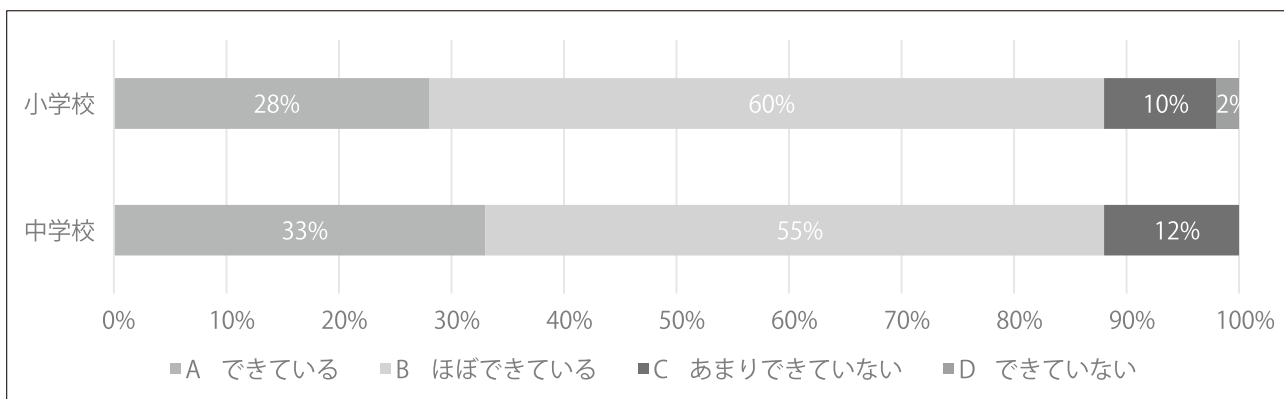
Q2 日々の授業における学習評価を記録に残していますか。

- A できている
- B ほぼできている
- C あまりできていない
- D できていない



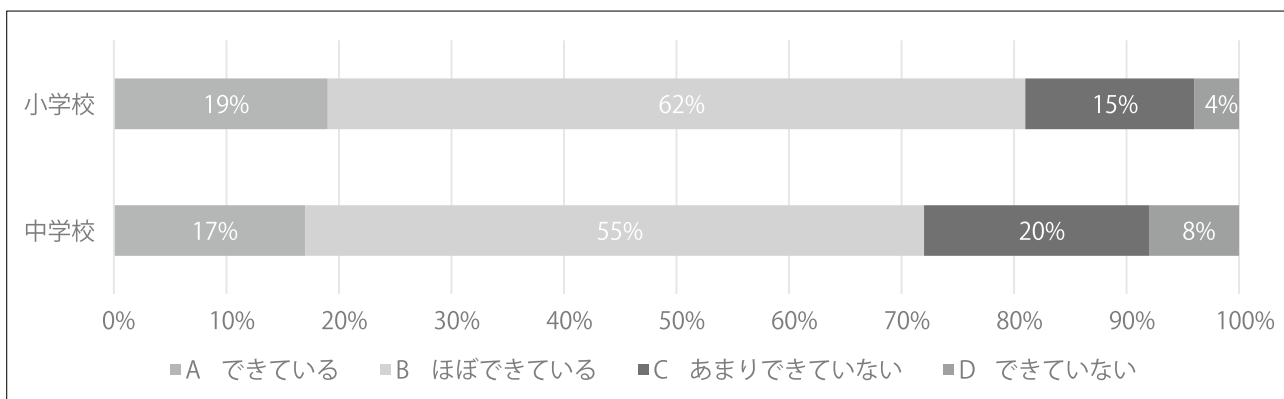
Q3 毎時間、または単元や題材のまとまりごとに評価を行い、授業改善や学習改善に生かしていますか。

- A できている
- B ほぼできている
- C あまりできていない
- D できていない



Q4 学年内、または教科担当内など、教員同士で単元の指導前に評価規準や評価方法について検討・明確化する時間を設けていますか。

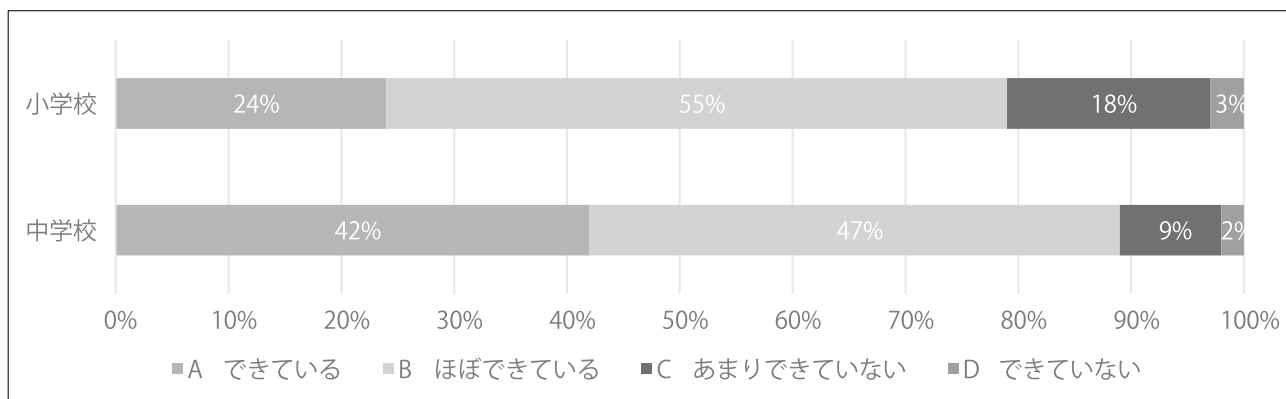
- A できている
- B ほぼできている
- C あまりできていない
- D できていない





Q5 評価方法について事前に説明したり、評価方法を工夫したりするなど、公平性や妥当性を保つ評価を行っていますか。

- A できている
- B ほぼできている
- C あまりできていない
- D できていない



Q1～5については、学習評価に関する意識調査を行いました。

小・中学校に分けて集約しましたが、校種による違いが少ないのが特徴的です。否定的回答が多かったのが「Q2 学習評価の記録」と「Q4 評価規準や評価方法の検討」です。時間をかけることができない、時間が足りないという理由が大きいのではないかと推察します。

また、比較的小・中で違いが大きかったのが「Q5 評価の工夫」の設問で、肯定的な回答が中学校で多く見られました。中学校は教科担当が学年全ての生徒を評価するケースが多いことや、生徒に対して評価方法の事前説明がより有効であることなどが理由として挙げられると考えます。

## 2 評価を行っていく上での課題・悩み

Q6 学習評価全般に関して、困っていることや悩みがあれば教えてください。

### 【小学校】

- ・自分自身もっと研修を行わなければならないと思いながら、十分な時間をかけられていないこともある。
- ・複式授業による間接指導時の、児童の見取りや評価の難しさについて。
- ・小規模校（単学級や複式学級など）では、学年間で相談したり研修を深めたりする機会が少ない。そのため、教員一人一人に委ねられることから、理解度や実践度の個人差が大きいと感じる。
- ・授業改善のための評価に関してはもっと勉強が必要である。ただし、学校での共通認識が不足しているため、評価の質についてまちまちである。
- ・評定のための評価については、観点が整理されたことにより、厳密にやればやるほど B 評定が増えてしまう現状がある。その子の良さを正確に伝えるためには、通知表以外の方法が必要になる。
- ・振り返りをどう評価に織り交ぜるか。
- ・単元テストと授業内評価の軽重。
- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価が C の児童が、学習に対して前向きに真剣に取り組んでいる場合、「主体的」の評価では A をつけてあげたくなるが、それはできないと言われたことがある。そのことが、担任としてはとてもやりづらく感じてしまう。
- ・主体的に学習に向かう態度の評価。
- ・主体的に学習に取り組む態度の評価について悩むことが多いです。
- ・主体性の評価が、どうしても主観が入ってしまっている気がする。
- ・主体的に学習に取り組む態度の評価が教師側の主観になりがちであり、正直難しい。
- ・評価基準を決めてはいますが、主体的に学習に取り組む態度の評価付けで悩むことがあります。
- ・評価の拠り所は学習指導要領である。しかし、主体的な学びに関する評価は抽象的で、客観的根拠によって評価しにくい。教師の主観を排することができない評価なため難しさを感じている。
- ・国研が提示した指導と評価の一体化にかかわる資料を読んだが、「主体的に学習に取り組む態度」については、「おおむね満足できる状況」と「十分満足できる」の違いを、一人一人見取ることがとても難しい。ポイントを絞るとか、少人数ずつとか、それでも難しい。小学校はそれを全教科行うとなると気が遠くなる。見取り方の工夫、実践について知りたい。
- ・図工の評価の基準。
- ・図工や音楽の思考面の評価で、基準を持つことが難しい。
- ・図画工作科の作品に対する評価（低学年）が難しいと感じることが多い。また、「主体的」をどう判断し評価するかについては、まだまだ勉強中。
- ・体育の評価が難しく困っています。
- ・芸体系（図工、音楽、体育など）の評価方法。
- ・芸体系（音楽・図工・体育など）の評価が難しい。主体的に取り組む態度の評価が曖昧になってしまっている。

- ・時間がない。
- ・時間の確保が大変。
- ・時間が足りず、まとまった時間を確保することができない。
- ・これをできればもっと授業が良くなるのはわかっているのですが、時間が全然ありません。
- ・即時評価をすればいいことがわかっているが、なかなかできない。写真などに残してどんどんたまってしまう。
- ・授業進行や個別指導（机間指導）にいっぱいいっぱいになってしまい、授業内評価までつけられていないことがよくあります。
- ・日々の授業の準備や業務に追われ、評価がたまってしまう場面がある。
- ・思うように、授業時間内で学習評価を終えられないこと。
- ・毎時間の記録ができない。
- ・効率・効果的な評価の蓄積方法について。（ICTの活用:Formsを使ったことはあるのですが、他に何か方法はないでしょうか）
- ・通常学級の担任だが、一生懸命頑張ってはいても、みんなと同じようにはできない児童の評価に悩むことがある。
- ・忘れ物が多いことについて評価にどれだけ加味するか。（本人の問題だけでなく、保護者や家庭環境の問題もある場合）
- ・不登校傾向やコロナ対応など、休みが多い児童の評価。
- ・合理的な配慮が必要な児童の評価についての共通理解。
- ・支援学級の学習評価について悩んでいる。
- ・保護者への提示方法をもっと簡素化できるとよいと思う。知的学級の通知表が文章によるものであり、支援計画の類で提示するものと内容がほぼ被る。どちらかにした方がよいのではないか。
- ・学年団で、評価のすり合わせをしなければならないこと。（複数学級の時）
- ・先生方で共通理解を図るための時間の確保が難しい。
- ・点数化できるものは分かりやすいが、数値に表せないものの評価規準を特に新卒の教員と共有するのは難しく、どうしたらいいか悩むことが多いです。
- ・他の教諭との評価の基準の乖離。（あゆみで甘くしようとする人がいる）
- ・専科指導をしているが、担任が非協力的なときがある。
- ・専科や習熟度別授業、教科担任制での指導の場合、いかに評価の平等性、統一性をもたせるかが難しい。

### 【中学校】

- ・全教科3観点になり、研修を重ね、「思考・判断・表現」と「主体的に学習する態度」と一定の相関関係があると結論し、%に大きなずれがないよう評価するようにしています。
- ・研修する時間がありません。
- ・恥ずかしながら、個別最適な学び、学習の個性化・個別化、個別最適な学びと協働的な学習の一体的な充実などの語句の整理や概念の把握に、頭がついていない状態です・・・。
- ・教員一人ひとりの意識差があり、学校全体で学習評価の改善につながらないこと。
- ・指導と評価の一体化の具体策がなかなか思いつかないです。
- ・初任校で、教科担当が学校内に一人なので、学習評価のより良い方法を知りたいです。

- ・他校の英語科の学習評価交流など、胆振管内で具体的な事例を基に、交流や研修が図られる場が欲しいです。特に、主体的な学習態度の評価に関する事例を具体的に交流できる場面があれば助かります。
- ・具体的な（実際の）学習評価の方法について他校と交流する機会がない。
- ・評価の観点について、テストで「知識・技能」と「思考・判断・表現」の点数配分をなるべく均等にしようとしているが、「思考・判断・表現」の問題の難易度が高くなる傾向にあるので、テスト全体の難易度も高くなってしまいがちであること。
- ・「記録に残す評価」と「指導に生かす評価」について、詳しく知りたい。
- ・免外での担当教科については、知識不足な部分が多く、今後の課題でもある。
- ・「主体的」な部分の評価方法に難しさを感じています。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法
- ・主体的な態度の評価が難しい。
- ・生徒の主体性を評価すること。
- ・主体的に学習に取り組む態度の評価で困ることがあります。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価の仕方がわからない。資料を読んでも具体的な評価方法がイメージできない。
- ・主体的に学習に取り組む態度に関する評価を評定にすることに難しさを感じています。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価。特に、普段から一生懸命学習に取り組んでいるのにもかかわらず成績に表れない生徒をどう評価するか。
- ・毎時間の授業の最中での、生徒の様子の見取りが難しい。
- ・体育の基準をどこに置いたら良いのか理解できていない。保健分野も同等に見てよいのか、実技重視で評価していいのかがわからない。
- ・体育分野で、知識と技能を同列に評価する今のシステムは、生徒の良さを伝えにくいのではないか。
- ・日々の業務や授業を作ることで精いっぱい評価のことまで考えられないのが悩みです。
- ・報告、連絡、相談、確認等々が最小限にしかできていない状況だと感じている。とにかく、忙しく、時間の確保が課題である。自分のイメージや理想には届いていないが、学校として、学級として、できる限りのことは、皆で協力して取り組んでいる。可能であれば、生徒一人一人のことについて、もっともっと日々交流し、より良い人的な環境や物的な環境、そして、個々に応じた対応がしたい。また、中学校なので各教科の先生とお話ができる時間を確保したい。その辺りがいつも、もやもやと悩んでいる。
- ・記録に残す評価が多く、勤務時間では全く終わりません。
- ・評価材料が少ないと思うことがある。
- ・評価材料をそれぞれ数値化した場合、重み付けをどのようにすべきか。
- ・能力に差がある生徒を平等に評価する基準の設定
- ・主体的に取り組む態度の評価をする際、振り返りの評価をしていると自分の主観が入ってしまうような気がする。公平に評価できているのか不安になるときがある。
- ・主体的に学習に取り組む態度が、コース別授業で同時に行っていると評価が難しい。どうしても指導者の主観が入ってしまいそう。
- ・主体的に取り組む態度についての評価方法が妥当なのか。
- ・主体的に学習に取り組む態度について、評価材料が教科ごとに異なり、学習評価が変わるこ

とで妥当性がないのではないかと思う。(ワークの提出、振り返りシート、ノートの記述・・・など基準がない)

- ・自分としては客観性・妥当性をもって付けているつもりだが、実際はどうなのだろうかと考えている。
- ・教科担当が1人なので、教科の特性による評価の妥当性を検討する場がない。
- ・話合いや主体的な学習など、主観がどうしても入るものや全体を見ていても見落としているかもしれない部分での評価の妥当性。
- ・評価の妥当性や客観性の確保が難しい。主体的に学習に取り組む態度の評価が主観にならないように気を付けているが、評価の観点が具体的でないものもある。
- ・評価自体が形骸化していくこと。

たくさんのご意見ありがとうございます。評価に関する個々の課題については、小学校、中学校で異なる傾向が見られました。

小学校では音楽、図画工作、体育などの評価方法について知りたいという声が多く寄せられました。定期的にワークテストを実施したり、ノートをとったりする国語、算数などの教科に比べて、芸体系の教科については、数値や形として残る物が多くありません。タブレット PC を活用して児童の活動や作品を撮影したり、考えや振り返りを記録し蓄積したりするなど、評価方法の工夫が求められます。

中学校では、具体的事例を伴う評価方法の交流を望む声や、評価の妥当性・客観性に関する悩みが多く寄せられました。これは、学校の規模が小さいほど、教科担当が少ない、あるいは1名しかいないという事情が関係しているものと思われます。新型コロナウイルス感染症の影響で、校外の研修機会が限られている今、各校において教科の枠を越え、評価方法について検討する機会が必要と考えられます。

また、小中共通で、「評価にかかる時間の確保」「( 平等性、妥当性を含む ) 主体的に学習に取り組む態度の評価方法」に関する声が多く寄せられました。

### 3 学習評価の実践例（主体的に学習に取り組む態度）

Q7 昨年度から新学習指導要領が全面実施となり、新たに整理された評価の3観点の内、「主体的に学習に取り組む態度をどのように評価したらよいのか」という声があります。

担当されている学年、または教科において、「主体的に学習に取り組む態度」をどのように評価しているか、指導学年及び教科も含め、具体的に教えてください。

多くの実践が寄せられました。ありがとうございます。ご自身の担当する学年や教科の実践をご覧になり、今後の指導の参考にしてください。

#### 【小学校】

##### 国語

- ・低学年は、お手本のまま文章を書くことがあるため、書くことの評価では、自分の書きたい文章を書くことできたか、または、人が読みやすい字で書こうとしているかで評価することがあります。（ワークシート、作文用紙）（1年）
- ・授業中の発表。ノートの振り返りの内容や量。書く単元で積極的に調べたり、進んで書こうとしたりしているか。（1年）
- ・物語文を読む際、主人公と自分の同じところ、異なるところ、もし自分だったらといった多様な視点をもって物語を読み進め、それらを書いたり、話したりしようとしている。（2年）
- ・全教科のふりかえりを、エクセルファイルを使ってすべて一か所で読めるように整理した。児童には、可能な範囲でふりかえりを打ち込ませている。（2年）
- ・「おもちゃのつくりかたをせつめいしよう」で、教材で示された説明の仕方の順序や言葉などを正しく捉えて、実際に自分が書く際の構成メモを自力で作成することができているか。また、更に自分の文章をよりよくしようと校正しようとする事ができているかどうかを記述や発言から評価しました。（2年）
- ・発表、姿勢や態度、ノート、プリント、スキル、テストなど。（3年）
- ・漢字練習などで時間が余った時に、ミニテストに向けての練習や苦手な漢字の練習などを、周りから言われなくても、何をすべきかを自分で考えて取り組んでいる姿を評価。（3年）
- ・学習前と学習後の変容を記録化し、比べる。（発言や記述、話合いの様子から）（3年）
- ・特別支援学級担任です。授業中発表を求められた時に、発表ができるかを重視しています。授業中発表を求めた時に、すぐに手が上がらない時は、発表を求められているよと声をかけます。それで発表することができても、それでよしとしています。もちろん、すぐに自分から挙手をして発表ができればその方がよいですが。（3年）
- ・①単元の終末に完成した評価物とその取組の過程の評価（学びを達成するためにどのような工夫をしているか）。②振り返りシートでの記入を評価。③単元テストの裏面の記述項目を評価に加味する。以上3点で評価を行っている。（4年）
- ・ワークテストの振り返り欄や、日々の授業の言語活動に向き合う姿勢を総合的に見て評価している。（4年）
- ・「固有種・・・」の学習で、スクールタクトを活用しています。相手を説得するための資料をタブレットで探したり、数値やデータをもとに論を進めたりするなど、友達の考えに触れな

から書く学習を進めています。まだ、授業の途中ですが、思考の経過も見られるので評価に役立っています。(5年)

- ・ノートやワークシートの取組、提出など。(5年)
- ・ノートなどの記述や振り返りなどを評価している。(5年)
- ・あらかじめ漢字のまとめテストを2回設定しておき、2回目の結果が2回目を踏まえたものになっているかどうかを見る。(6年)
- ・授業中の発言やノート指導、対話での児童の学習に取り組む姿勢、振り返りなどが多いです。1時間単位や1単元での変容を振り返りなどで見られるときに見るようにしている。(6年)

## 社 会

- ・施設見学実施において、自分なりの課題を設定し、それを聞き取り、まとめることができているかどうか。(4年)
- ・単元の終わりに学習内容をノートにまとめる時間を設け、単元の中から各自テーマを設定し、大事だと思うポイントを進んでまとめられているか評価している。(4年)
- ・課題を出し、グループにて課題解決学習を行わせている。その取り組み方や調べていることを評価としている。(5年)
- ・ノートやテストのコラム欄への記入(これからの農業をどうしていくかなど)。(5年)
- ・事前に調査してくるよう指示したことを実行したか否か、等。(6年)
- ・まとめのノート作り。(6年)

## 算 数

- ・分からなかった問題などを、教科書を振り返るなどしながら解こうと努力している。(1年)
- ・ICTを有効活用。(2年)
- ・授業での態度(主に様子、発言、ノートの3要素)を単元末に総合的に評価しています。(3年)
- ・ノート確認。少人数なので、授業中の観察。(3年)
- ・自分の考えだけでなく、友達の考えの良いところを聞いて、または話し合っ、よりよい考えをノートに記録したり発表したりしている。(3年)
- ・思考力・表現力を発揮する場面で、見取りを確実にに行い、記録に残す。(4・5・6年)
- ・授業中はどれだけ粘り強く取り組んでいるか。ノートのふりかえりの中で、どれだけ自己調整を計っているかで見取っています。(4年)
- ・問題解決の過程で、取り組もうとしている態度(答えを導き出そうとする姿勢)、考えようとする態度、友達と対話するなどして考えを深めようとする姿勢、等授業の様子。ノートの見取りなど。(4年)
- ・授業中の課題作りに進んで取り組む、発言しようとするなど。(4年)
- ・課題以上に自分で問題を作ったりして前向きな姿勢や態度が見られた時、高評価です。(5年)
- ・毎時間の振り返りをノートに記入させています。単元の初めに学習計画表を児童に配付し、単元の終わりに振り返りを記入させて提出して毎時間の気付きや学びを見取るようにしています。(5年)
- ・ノートに思考の過程を確実に残させることで「粘り強い取り組みを行おうとする側面」を見取ったり、課題を解決するための方法を複数示し、自己の課題を解決するために最適な方法を選択させることで「自らの学習を調整しようとする側面」を見取ったりしている。(5年)

- ・学習リーダーを中心に進める授業では、いかに授業に関われているかを見ています。(5年)
- ・自主的に予習復習に取り組んでいるかを見取っている。(5年)
- ・授業態度、テストやプリントなど。(6年)
- ・スクールタクトなど ICT、ノート。(6年)
- ・振り返りでの書き込みで、今後の生活や日常の生活の中でどう生かすことができるかの発展。授業の導入で既習事項や前時の学習との違いからどのように解くか計画立てているかなどを記述させる、視覚化させるなどして記録しておく(Chromebookなどでデータ化しておくと便利)。(6年)
- ・毎時間、児童が記述する「ふりかえり」を評価の材料としている。その中で、本時にできたこと、できるようになったこと、できなかったこと。できなかった場合はどこにつまずいたのか、できるようになるためにはどうしたよいかなどの記述から、その子の主体的な態度を見取る。(6年)
- ・①単元全体の学習計画や、本時の学習の進め方を計画するときの発言等。②解決方法や発表・表現方法を選択するときの発言等。③発表・交流した内容を受けて、さらによい解決方法はないかを試行錯誤しようとしているか。(6年)
- ・「比例と反比例」～日常生活で、比例や反比例が活用できる場面を見付ける学習活動。学習する中で比例や反比例を活用する場面を見付けることや、活用することで能率のよい処理ができることに気付いているのか。また、これからの学習や生活に生かしていこうとしているかを評価する。見付ける活動での様子や、振り返りに書いてある内容で評価する。(6年)

## 理 科

- ・鉄が磁石に引きつけられるという性質を生かして、身の回りの物を仲間分けしたり、自分たちの生活の中で、磁石がどのような場面、部分で使われているかを考えたりする活動を通して評価をする。(3年)
- ・問題を見出す力(発言、ノート)、実験での様子、結果からわかったことをまとめる姿(発言、交流、ノート)、深めている様子(発言、ノート、交流)、振り返る姿(発言、ノート)など。(4年)

## 生 活

- ・成果物の見本を4パターンほど作り、それぞれの良いところ確認する。自分はどれをまねしたいのか(自分で考えるのも OK)、「そこにアレンジがあるといいね」というと、見出しを変えたり、絵を加えたりなど、まとめる際に工夫を見取ることができる。思考・判断・表現の評価は文章や内容などから見取るが、そのアレンジや工夫は主体的に学習に取り組む態度として評価する。(2年)

## 音 楽

- ・ワークシート・観察・学習準備。(2年)
- ・例えば、リコーダーや器楽を一生懸命練習しようとしているなど。(4年)

## 体 育

- ・ワークシートからの見取りや行動評価(思考しながら活動することができているか等)。(1年)
- ・ワークシートやスプレッドシートを活用した振り返りを行い、課題を正確にとらえ、主体的に考えて取り組んでいるか評価している。(4年)



## 外国語活動・外国語

- ・授業観察での取組及び、パフォーマンステストを通じた学習のまとめの振り返りシートの記述から、粘り強く取り組もうとしているか、自己調整を図ろうとしていたかを見取り、評価している。(5年)

## 教科問わず

- ・授業の様子、動画、仲間と協力しているか。ワークシート。(1年)
- ・どの教科でも言えることだが、苦手意識があったり、どのように進めるとよいか迷ったりしているときに、担任や友達に自分で質問するなど、何もしないで時間を過ごすのではなく、まずは自分の力で何とか解決しようとしている姿を評価。(3年)
- ・Teams を活用し、全ての教科で、学習の振り返りをさせている。個々の記入内容を学級全員が見ることができるようにしていることで、うまく書けない児童も、他の児童の振り返りを参考にしながら書けるようになってきている。記入の際には、分かった(理解した)ことだけではなく、自分自身の学習への関わり方や、次の学習への応用などにも触れるようにさせている。(4年)
- ・日々・単元ごとに振り返り(ノートやワークシート、タブレット端末での記述蓄積)、分かったこと、できるようになったこと、難しかったこと、疑問に思ったことを分けて書かせる。毎回全ては書かなくて良いが、その都度思いついたことを書き入れていく。(5年)
- ・まだ実践はしていないが、単元を通して、こんなことを前に比べて考えるようになった、調べてみた、家庭で会話した、などといった記述を見取る仕組みがあれば、各教科内容の生活への活用、実践意欲を知ることができるのではないかと考えている。(5年)
- ・できるだけ記述での評価にしたい。そのためには年度初め、低学年のうちから「振り返り」のシステムを学校全体で一本化、系統化していくことも大切だと考える。○・×・△などの段階別では、本人の姿勢や性格に左右されるのではないかと思うためである。また、記述式を推し進めていくにあたって書くことが苦手な子についての対応策も考える必要がある。(5年)
- ・ノートやワークシート。
- ・児童観察、発言、つぶやき。
- ・全教科通してふりかえりの記述内容を重視している。
- ・タブレットの活用、授業でふりかえりを書かせる、などいくつかを組み合わせ評価につなげている。

## 【中学校】

### 国語

- ・自己評価シートの記述から、どのような意識で学習課題に取り組んだかという部分を見取るように心がける。(1年)
- ・個の学習を集団の学習に繋げ、そこで「対話的」な学びを経て、個の能力を調整できたかどうかという点に注目している。例えば、ある題目でスピーチを行うべく、草稿を書いたとする(ここまでは個の学び)。グループ内で草稿を読み、改善点を指摘し合う(「対話的」な集団での学び)。それによって、草稿を改善したり、あるいは、このままで良いという確信を得て、スピーチ本番に臨んだりする(再び個の学び)。ここでの自己調整を見取ることで「主体的に学習に取り組む態度」の評価に繋げることが妥当だと考えている。(3年)
- ・和歌の授業でタブレットシートを生徒一人一人が使用した。取組内容を視覚化するようにし

た。生徒一人一人の進捗状況がいつぺんに見られることで、取組の状況や内容が分かりやすく、個別評価がしやすかった。コメントによる個別アドバイスもできた。(3年)

- ・各単元の言語活動を提出させ、その出来栄を反映させている。例) 作文・絵・意見文など。(3年)
- ・単元ごとに記述式の評価を取り入れたり、発展的内容を取り入れたりする。
- ・ファイルにプリントを蓄積してのポートフォリオ評価。

## 社 会

- ・レポートやポートフォリオの内容、課題に対する取組状況等。(1年)
- ・単元シラバスや、授業プリントに書かれている自己評価や次に学びたいことなどの内容。それが、理解につながっているものであれば高評価となる。(1年)
- ・事前に評価基準を示した上での、ノートの書き取りの具合。(1年)
- ・評価に加えるテストに向けた学習、振り返りの記述の変遷等から見取る。(2年)
- ・教科書の内容に基づいた事前課題を提示する。授業後に回収し、その内容について評価する。(2年)
- ・小テストを重ね、継続して取り組んでいるか、等。(3年)
- ・単元テスト前に「勉強した証シート」という名で、どのくらい自分で学習を調整したかを見取っている。得点は単元テストの2分の1としているが、シートの学習内容や量により加点・減点をしている。

## 数 学

- ・支援学級のため、そのお子さんが、スモールステップで成長された様子を見取り、本人にも保護者にも文章(通知表)や口頭(面談)で伝えています。(1年)
- ・課題を事前に指定した上での小テストの実施。(1年)
- ・授業のノート(どのように問題に取り組んでいるか)。授業のふりかえり。(2年)
- ・主体的に学習に取り組む態度を問うような設問をテストに設ける。授業内容を工夫するとともに、学習過程をノートでチェックする。(2年)
- ・毎時間、授業の後半に「振り返り」を生徒に記入させ、評価に反映させている。(3年)
- ・記述内容から評価することに取り組みましたが、難しさを感じています。(3年)
- ・全教科3観点になり、研修を重ね、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」と一定の相関関係があると結論し、%に大きなずれがないよう評価するとしています。以前のように、「頑張っているから」という評価はしないよう取り組んでいます。

## 理 科

- ・実験などに取り組んだあとの感想や授業の自己評価を材料としている。感想については、実験などを通してさらに学びたいことがあるか、身の周りのことと結び付けてみたときに新たな疑問が生まれたかなどが書かれていると高評価にしている。また、話し合い活動や実験などに積極的に参加しているかを参考にしている。(1年)
- ・授業時に取り組む態度(発言等)、提出物。(1年)
- ・授業中の発言、実験レポートでの考察など。(1年)
- ・授業の取り組み方、ノート(実験の記録)、日々のワークの取り組み方、単元毎の振り返り。(2年)
- ・持ち込みプリントを授業で作成し、持ち込みプリントありで単元テストを行う。(3年)
- ・実験のワークシートへ振り返りを記入させて評価している。(3年)

- ・学んだ知識を日常生活で生かしているか、どの自然現象がどの知識と結び付いているのか。(3年)
- ・授業全般の「見取り」とテストの結果や課題の内容、そして生徒個々の個性などを踏まえて総合的に判断して評価し、学期末に個別に伝えつつ学習助言をしている。(本校では教科面談と称しています。)
- ・単元テスト、ノート

## 音楽

- ・自己評価、考えや感想を丁寧に書いている、話や鑑賞を聞く態度の見取り。

## 保健体育

- ・提出物や授業への取り組み。(1年)
- ・授業最後にワークシートの実施。(1年)
- ・ワークシート、授業に向かう姿勢、忘れ物がないかなど。(2年)
- ・学習カード、授業観察。(3年)
- ・プレーの観察、準備片付け等協力の観察、提出物など。(3年)
- ・保健の授業でのノートづくりやタブレットを使用した授業形態の中での発表など。(3年)

## 技術・家庭

- ・ワークシート等を使い、振り返りに記入する。(1年)
- ・全学年で行っています。毎時間、授業の最後に Google フォームでの小テストを実施し、生徒の取組の記録化を行っています。10 学級にて授業を行っているため、参加生徒や取組の様子が客観的に記録化できるため重宝しています。期末テストは基本的にこの小テストをまとめる形で作成しており、各回の小テストはクラスルームに蓄積されているため、生徒はいつでもテストに向けての復習をすることができます。

## 外国語

- ・授業態度や課題の提出など。(1年)
- ・授業での発表・提出物の内容 (1年)
- ・パフォーマンステストでの評価、ノート整理での評価、授業内での活動の見取りでの評価。(1年)
- ・単元ごとの振り返りシート、ペアワーク等での取り組み方。(2年)
- ・書く活動の取り組み (教科書の単元のまとめの文をいくつ書けるか) など、単元を通して身につけるべき文法について継続的に取り組んでいるかを図る方法。ライティングノート提出など。(2年)
- ・提出物、宿題、観察など (2年)
- ・生徒同士によるスキットをタブレットで録画し、その中で言語材料を使用して積極的に相手とコミュニケーションを図ろうとしているかを、事前に作成したルーブリックを参考に評価しています。(3年)
- ・スピーチの作成と発表、自由英作文など。(3年)
- ・長期休業明けのペーパーテストや、定期テスト内で自身の学習方法で工夫した点や、出来るようになったこと、まだ足りないことなどを、指定したキーワードを使って日本語で記述させることをしています。(3年)
- ・スピーチテストでの姿勢、英作文での取り組む姿勢、授業の参加姿勢。(3年)

## 調査を通して見えてきたこと

今回の調査から、各校の学習評価に関する現状、特に課題がはっきりと見えてきました。学校全体としての課題は、大きく次の3点が挙げられます。

- ①教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある評価をどのように行っていくか。(指導と評価の一体化)
- ②個人の主観ではなく、共通理解に基づいた評価をどのように行っていくか。
- ③「主体的に学習に取り組む態度」をどう評価するか。

また、教師個々の悩み・課題として、次の3点について多くの声が寄せられました。

- ①芸体系教科をどのように評価するか。(小学校)
- ②具体的事例をとまなう評価方法について知りたい。(中学校)
- ③客観性・妥当性のある評価について知りたい。(中学校)

新学習指導要領全面実施と時を同じくして、新型コロナウイルス感染症の拡大がありました。他校の授業を参観したり、研修に参加したりといった行動が難しい中、各校または個人で迷い、悩みながら学習評価を進めている現状があると推察されます。各校においては、学年・教科の枠を越えた校内研修や、授業研究の一層の充実が求められます。

今回の調査では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、管内の先生方から具体的な実践例を寄せていただきました。担当する教科、学年を中心にご覧いただき、皆様のこれからの実践につなげていただきたいと思います。

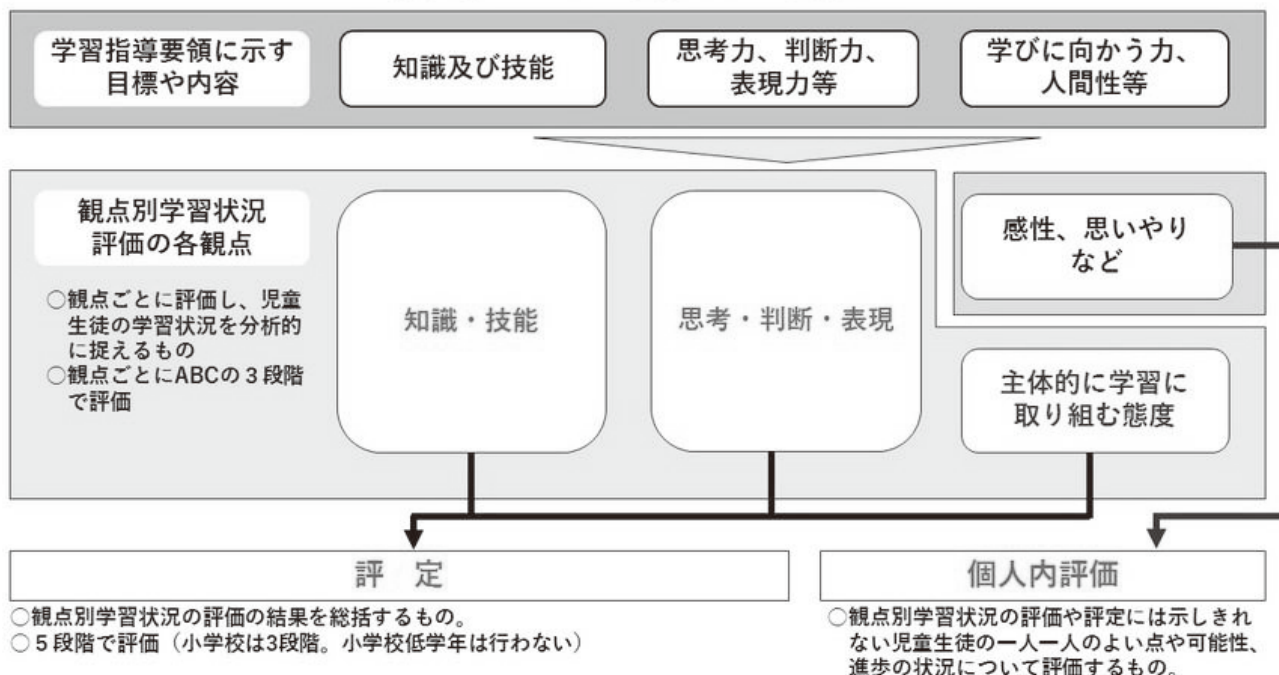
次ページでは、新学習指導要領における「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、胆振教育研究所として整理したものを載せていますので、ご覧ください。

# 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

学習指導要領では、育成を目指す資質・能力は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つに整理されました。

これを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。

## 各教科における評価の基本構造

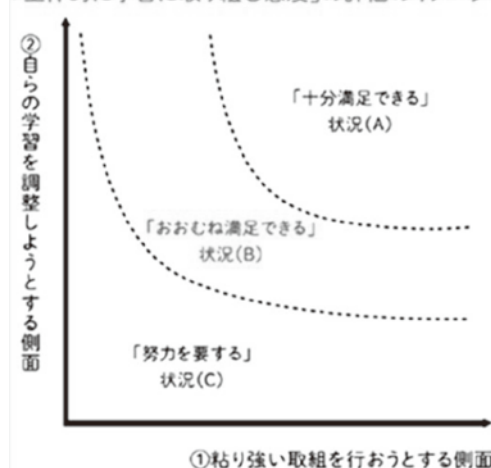


このうち、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、

- ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする。
- ②自らの学習を調整しようとする。

以上の2つの側面から評価することが求められます。これらは教科等の学びの中で別々ではなく、相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられ、右の図のように総合的に判断をして評価をしていくことになります。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ



- ただし、実際に評価をするに当たって、多くの人が次のような悩みや課題を抱えています。
- ・「自らの学習を調整しながら学ぼうとする」とは、具体的に児童生徒のどのような姿を指すのか。
  - ・どのような方法で評価すればよいのか。
  - ・評価が教師の主観になってしまっていないか。

「主体的に学習に取り組む態度」は具体的に、どのような場面で、どのような方法で評価していけばよいのでしょうか。

粘り強い取組の具体的な姿は、「時間をかけて取り組む姿」や「あきらめずに最後まで取り組む姿」などが挙げられます。教師にとっては具体的なイメージも湧きやすく、評価方法も観察や学習物の仕上がりや、取組の成果などで、比較の見取りやすい側面といえます。

自らの学習を調整しようとする側面の具体的な姿は、「自分の学習状況を自己診断する姿」や「難しい学習ができるようになる方法を自分なりに工夫する姿」などが挙げられます。学習の「質」を向上させようとする姿を適切に見取り、評価するためには、書く活動の充実が不可欠です。

児童生徒の書く活動の一つである、授業や単元の節目や終末における振り返りは、その児童生徒の学習の成果であり、自己評価でもあります。振り返りの活動を充実させることは、児童生徒自ら学習を調整する姿勢につながり、ひいては主体的に学習に取り組む態度を評価する上でも有効な手段となります。また、書いたものは評価の根拠としてしっかりと残ります。

振り返りを充実させるには、ただ書かせるのではなく、何について書かせるのかという視点、対象をはっきりと明示することが不可欠です。そのためには教師側の事前準備、すなわち、単元における主体的に学習に取り組む態度の評価規準を具体的に言語化しておくことが大切になります。

#### 【具体的な言語化の例】

主体的にマット運動に取り組んでいる。



マット運動において、自己の目標に向けて仲間と考えを伝え合いながら、進んで練習に取り組もうとしている。

評価規準の構造を「○○について（おいて）、△△しながら（して）、□□しようとしている。」と作成します。○○には活動や場面、状況など、△△には①粘り強さ、②学習の調整、③実感や自信に関して具体的に表したものの、□□には主体的に学習に取り組む態度として表れる行為が入ります。

△△に入る具体的な言語サンプルとしては、以下のようなものが考えられます。

- ・ 何度も粘り強く繰り返し
- ・ ゴールや目標に向かって
- ・ 自ら進んで考え
- ・ 自分の考えをはっきりと伝え
- ・ 学んだことを生かして
- ・ 他者と関わり
- ・ 力を合わせて
- ・ 相手の考えを参考にして
- ・ だれに対しても同じように など

単元の指導を通じて、児童生徒にどんな力を身に付けさせたいか、ゴールの姿を明確にしておくことは大切です。その姿を言語化したものが評価規準であり、これは主体的に学習に取り組む態度に限らず、全ての観点で明確にする必要があります。

単元の指導前に評価規準を具体的に言語化すること、そして、できるだけ複数の指導者で共有することが大切です。それが平等で、妥当性のある評価につながります。

また、指導後には、定着度を確認したり、評価規準が適切であったか振り返ったりすることが、次の指導に役立っていきます。この過程こそがまさに「指導と評価の一体化」であり、最終的には自身の授業改善につながっていくのです。

## 参考文献

- ・学習評価の在り方ハンドブック小・中学校編 国立教育政策研究所
- ・児童生徒の学習評価の在り方について（報告） 平成 31 年 1 月 21 日 文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
- ・小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録等の改善等について 平成 31 年 3 月 29 日 文部科学省初等中等教育局長通知
- ・新学習指導要領に基づいた評価を行うために 鳥取県西部教育局ホームページ
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 国立教育政策研究所
- ・『学習評価』 田村 学 著 令和 3 年 5 月 10 日 東洋館出版社

## 令和4年度 所員一覧

| 役 職 名   | 氏 名     | 所 属 学 校    | 職 名  |
|---------|---------|------------|------|
| 所 長     | 坂 本 博   | 登別市立幌別中学校  | 校 長  |
| 副 所 長   | 永 井 修   | 伊達市立伊達小学校  | 校 長  |
| 事 務 局 長 | 高 橋 賢 治 | 登別市立鷺別小学校  | 主幹教諭 |
| 事務局次長   | 白 井 賢 司 | 伊達市立伊達中学校  | 主幹教諭 |
| 所 員     | 渡 辺 隆 之 | 伊達市立伊達小学校  | 主幹教諭 |
| 所 員     | 永 井 久   | 登別市立緑陽中学校  | 主幹教諭 |
| 所 員     | 石 井 芳 政 | 伊達市立伊達西小学校 | 教 諭  |
| 所 員     | 藤 田 佳 嗣 | 伊達市立光陵中学校  | 教 諭  |
| 所 員     | 関 川 恭 平 | 登別市立若草小学校  | 教 諭  |
| 所 員     | 黒 川 知 恵 | 白老町立白老小学校  | 教 諭  |
| 事 務 職 員 | 水 留 恵美子 | 胆振教育研究所    |      |

## あとがき

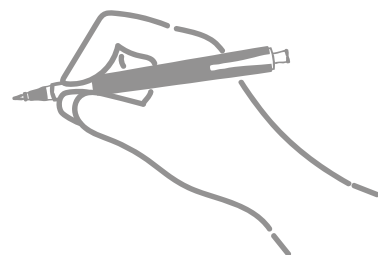
何事にも表と裏、陰と陽、メリットとデメリットなど、両面があります。どちらか一方に偏ることなく、物事を両面からとらえることで本質が見えてきたり、新たな発想が生まれてきたりします。例えば、新型コロナウイルス感染症拡大によってオンライン授業の必要性は高まり、GIGA スクール構想は加速度的に進みました。未曾有の状況の中でも歩みを止めなかったことで、教育は大きな変化を遂げました。

しかし、本研究紀要の作成に当たり、先生方の声を聞かせていただく中で、コロナ拡大による負の影響は決して少なくないと感じました。その一つが、様々な実践に肌で触れる機会が制限されたことです。「他校の公開研究会に参加することで、新たな学びや刺激を得る」ことや、「多くの先生と幅広く交流することで、悩みを共有したり、不安を解消したりする」など、先生同士の直接的な関わりの場面は、コロナ前に比べて大きく減ってしまいました。

困った時や知りたい時に、書籍やインターネットで調べたり、オンライン研修に参加したりするなどの方法はあります。見て、聞いて、様々な実践に直に触れることが、より実感を伴う学びにつながることは言うまでもありません。そうした機会を求めている先生が多いことを、今回の学習評価に関する調査ではっきりと認識できました。

本研究紀要の作成にあたり、お忙しい中、現場の生の声を届けていただいたことに心より感謝申し上げます。コロナ前を考えれば閉鎖的とも言える現状で、日々悩みながら実践を進めている先生方のお役に少しでも立つものとなっていれば幸いです。あわせて、以前のように先生同士が直接関わり、学び合い、高め合う日々が一日も早く日常となることを心から願っています。

担当所員  
渡 辺 隆 之





令和4年度 研究紀要 第237号

調査課題研究

学習評価に関する調査

～アンケート結果の報告と考察～

発行年月日 令和5年3月1日

発行 胆振教育研究所

代表者 所長 坂本 博

印刷 (有) 村上印刷